

とろむ報所

独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立室戸青少年自然の家

— National MUROTO Youth Outdoor Learning Center —

第 36 号

— 令和 4 年度事業報告等 —



巻頭言

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立室戸青少年自然の家所長
大 向 満

令和4年度に実施した事業等の報告を冊子にまとめました。是非とも御高覧いただき、御意見や御助言を賜りましたら幸甚です。

約3年にわたる新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、令和4年度事業の実施等においても、「国立室戸青少年自然の家における新型コロナウイルス感染症予防ガイドライン」に基づき感染予防に取り組んできました。参加者の皆様には、手指消毒、マスクの着用などの感染対策の徹底等をお願いするとともに、募集人数の削減等、参加者が安心して事業に参加できるよう、新しい生活様式に沿った形での開催となり、たいへんご不便をおかけすることとなりましたこと、どうかご理解をいただきたいと思います。

しかしながら、コロナ禍にあっても、募集定員を大きく上回るご応募をいただくなど、子供たちが自然体験の機会を求めていることを知り、誰一人取り残すことのないよう体験機会の提供に努めることが必要であると強く感じるところです。

令和5年度も、地域の財産である室戸ユネスコ世界ジオパークを舞台とした活動や、近年需要が高まっている防災プログラムやイングリッシュキャンプなど、室戸の特色を生かし、既に人気定着している海の活動以外にも施設の特色を打ち出していき、参加者の皆様に満足いただける事業の開催に努めていきたいと考えています。

最後に、コロナ禍で多くの制限がかかる中、令和4年度の事業等の実施にあたっては、研修指導員やボランティアリーダーの皆様から多くの支えをいただきましたこと、心よりお礼を申し上げます。

これからも、皆様の一層の御支援と御協力をいただきますようお願いいたします。

令和5年3月

目 次

令和4年度トピックス

令和4年度事業報告

教育事業

- 01 ボランティア養成講座
- 02 サイエンスキャンプ in 室戸 ～室戸を知れば地球がわかる！～
- 03 M キャンプ「水族館に泊まろう」！（小学生対象）
- 04 室戸ファミリープログラム
- 05 みんなでエンジョイ！わくわくキャンプ（ボランティア自主企画事業）
- 06 自然体験活動指導者養成研修（NEALリーダー）
- 07 イングリッシュキャンプ
- 08 あつまれ！絵本の森
- 09 お正月を遊びつくせ！書き初めキャンプ
- 10 M キャンプ「水族館に泊まろう！」（中学生対象）
- 11 むろと元気塾
- 12 ふれあい通学合宿

地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業

- 13 体験！発見！ジオパーク（マリンスポーツ編）～室戸の海を楽しもう～
- 14 M キャンプ「ソロキャンプにチャレン！！～むろとサバイバルテント泊～」
- 15 生き物ウオッチング 2022 in 室戸ユネスコ世界ジオパーク
- 16 防災キャンプ in 室戸
- 17 くろしお祭り（室戸においでよ！家族 Day！！）
- 18 M キャンプ「ふれよう！まなぼう！食べよう！土佐あかうし！」
- 19 体験！発見！ジオパーク①②③
- 20 「早寝早起き朝ごはん」むろとキャラバン隊
- 21 くろしおいっしょにあそぼう通信

管理運営報告

広報活動

利用実績

海洋活動体験船「くろしお」復活プロジェクト 寄附者ご芳名

【 国立室戸青少年自然の家 令和4年度 トピックス 】

○事業関係

1. 「むろと廃校水族館」と連携協定を締結

令和3年度より「むろと廃校水族館」で教育事業「水族館に泊まろう！」を開催し、子供たちがウミガメや魚の水槽の周りで寝袋を使い宿泊体験をしたり、早朝の大型定置網の水揚げを見学するなど、ふだん体験のできないことを実施してきました。今後、相互の発展及び地域活性化に一層寄与するため、11月14日に「連携・協力に関する協定」を結びました。

今後、むろと廃校水族館からタッチプールカーの魚の提供を受けたり、むろと廃校水族館を通して地域の他の団体と協力することにより、子供たちに様々な体験の機会を提供することが期待できます。



(右写真：むろと廃校水族館の屋外プールにSUPを浮かべ、サメやウミガメの見守るなかで調印！)

2. 「土佐くろしお鉄道」と事業を連携

土佐くろしお鉄道と当自然の家双方の強みを生かして、8月に「室戸岬探勝とシーカヤックとサップ体験～親子で学ぼう自然体験ツアー～」を共催で実施しました。

また、この事業は土佐くろしお鉄道の鉄道利用の促進、沿線地域の魅力発信を目指すとともに、当自然の家としても国立青少年教育振興機構が推進する民間企業等と連携した自然体験活動の普及、地域連携の強化にもつながり、次年度からも実施していくこととしています。

8/10
水

8/26
金

**室戸岬探勝とシーカヤックとサップ体験
親子で学ぼう自然体験ツアー**

室戸

出発地	おとな/子ども	お一人様料金	トク割	割引後料金	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> 最もお得なクーポン ￥2,000 </div> <small>館内の飲食店・土産物店 観光施設等で利用できます。</small>
宿毛発	おとな	12,000	-5,000	7,000	
	子ども	7,500	-3,750	3,750	
高知発	おとな	6,000	-3,000	3,000	
	子ども	4,000	-2,000	2,000	

室戸ユネスコ世界ジオパークをガイドと一緒に歩き室戸岬を全身で感じながら、親子で学習!!いつもは、入る事のできない室戸岬灯台下まで行けるよ!!シーカヤックとサップ体験もついた室戸をぎゅっと詰め込んだ自然体験ツアー

行程 ■宿毛駅発(5:32) ■中村駅(6:08) ■高知駅発(8:30) ■奈半利到着(9:42) ■貸切バス(高知東部交通) ■室戸岬園地公園駐車場(10:40) ■(徒歩)目洗い池・月見ヶ浜・灘頂ヶ浜・タービタイト・アコウの木 ■室戸岬灯台 ■12:15 海の駅とろむ(昼食) ■シーカヤック・サップ体験(13:20) ■キラメッセ室戸楽市 ■奈半利駅(17:12) ■後免駅(18:15) ■高知駅(18:31着)(18:55発) ■中村(20:47) ■宿毛(21:24)

注) ■持参するもの: 水着、マリンシューズ、帽子、タオル、着替え ■天候により内容を変更する場合があります。
 主催: こめん・なはり観光の会 共催: 国立室戸青少年自然の家 協力: 室戸市観光ジオパーク推進課 貸切バス: 高知東部交通バス

募集人員 25名(最少催行 20名) 奈半利駅より添乗員同行

3. 外国人技能実習生(かつお一本釣漁業)と韓国高校野球部(ラオン高校)の受け入れが再開!

新型コロナウイルス感染症防止のため、令和元年度を最後に受け入れのなかったインドネシアからの漁業実習生(20人)と韓国ラオン高校野球部(33人)を、12月から2月にかけて3年ぶりに受け入れました。受け入れに当たっては、県や市の皆様にたいへんご尽力をいただき、感謝に絶えないところです。当自然の家も久しぶりの受け入れで、過去に経験した職員も少なく試行錯誤が続いています。まだまだコロナ禍で生活面での制約のある中、両団体とも協力的で、毎日元気に頑張っていて、館内も活気に溢れていました。

○施設・設備関係

1. クラウドファンディングによる外部資金の獲得

海洋活動体験船を修繕し、子供たちのため感動体験プログラムを復活させたい！！

国立青少年教育振興機構としてクラウドファンディングが実施できる体制を整備したのを受け、機構第1号として実施しました。

	<p style="text-align: center;">海洋活動体験船「くろしお」復活プロジェクト</p> <p>故障した海洋活動体験船「くろしお」を修理し、子どもたちにミニクルージングを体験させたい！！国立室戸青少年自然の家の自然体験活動プログラム「ミニクルージング」再開に向けてのプロジェクトです。</p> <p>実施スケジュール</p> <p>募集期間 2022年12月15日(木)から 2023年1月31日(火)まで</p> <p>修理点検 2023年3月</p> <p>ミニクルージング再開記念事業 2023年5月3日(水)、4日(木)</p>
---	---

結果

130人からご支援をいただき、目標を上回る形で達成しました。

(支援者の方々のお名前は最終頁に掲載。)

ご支援いただいた皆様、誠にありがとうございました。

2. くろしお棟への連絡橋の改修

当自然の家のメインホール棟と宿泊棟を結ぶ連絡橋は、開所当時(1977年度)に建築されたものであり、経年・塩害による腐食・劣化損傷の度合いが著しく、そのため、劣化防止の対策が急務でありましたが、令和3年度政府補正予算により連絡橋劣化防止対策としての整備予算が確保できたことで、今年度に塗装補修・鉄部補修等の対策工事を行いました(写真は作業風景)。



ボランティア養成講座

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

子供たちの体験活動に関わる上で必要とされる野外活動のスキルや安全管理、体験活動の意義や青少年教育施設の取組の実際について、実習や講義を通して学ぶことにより、ボランティアとして子供たちとともに活動し、自然体験活動の楽しさや喜びを伝えることができる青年の育成を図る。

○ 実施期間

令和4年5月7日（土）～令和4年5月8日（日） 1泊2日

○ 参加者数

高知大 16名、高知県立大 19名 計 35名

○ 講師

瀬沼 健 氏（高知県キャンプ協会 会長）

田辺 秀 氏（WILD BLUE 代表）

室戸市消防本部室戸市消防署 署員

国立室戸青少年自然の家 職員

○ 活動プログラム

	5月7日（土）		5月8日（日）
11:30	開講式	07:15	朝のつどい（講座の一環として特別実施）
	昼食	07:30	朝食
13:00	ボランティア活動の技術（4.0h 瀬沼・田辺）	08:00	安全管理（3.0h 室戸市消防本部・蛇目）
17:30	夕べのつどい	11:10	青少年施設の現状と運営（1.0h 大向）
18:30	青少年教育（1.5h 瀬沼）	12:15	昼食
20:00	ボランティア活動の意義（1.5h 蛇目）	13:00	青少年教育施設でのボランティア活動 （1.5h 田辺・松下）
22:00	入浴・就寝準備		
	消灯	15:15	閉講式

2. 活動の様子



ボランティア活動の技術



青少年教育



安全管理

法人ボランティア養成カリキュラムに則り 13 時間の所定プログラムを開催した。ボランティア育成

ビジョンによる位置付けに基づいて当施設のフィールドに合うように講座内容をアレンジした。施設としてボランティアに伝えるべき内容を整理し、講義の流れがスムーズに進めることができるよう、講師との連携を図った。令和3年度に引き続き瀬沼健氏（高知県キャンプ協会 会長）、田辺秀氏（WILD BLUE 代表）の両氏に講師をお願いして実施した。

3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・レクリエーション等を自分たちが実際にやりながら、指導上の注意点を教えていただけたのでわかりやすかったです。
- ・自然活動が多く、面白くも参考になった。
- ・ボランティアについて学びやすい環境が作られていた。
- ・瀬沼先生の外の活動は新鮮で自然を活用していると感じた。

○ 事業の成果

- ・制約の多い中、一定数のボランティアを育成することができた。朝・夕のつどいについても講座の一環として特別に実施することで、つどいの意義を周知するとともに実際の進行についても理解を深めてもらうことができた。

○ 事業の課題

- ・コロナ禍での開催も3年目になると対応ノウハウも確立してきたが、計画的なボランティア養成については苦心することとなった。令和3年度に引き続き講座参加者、新規登録者の数が伸び悩んだ。コロナ後の生活に戻った際に支障をきたさない最低限の数に近づきつつあり危機感を抱いているが大学との良好な関係は継続していることは幸いである。今後も需要に応じた講座の開催とボランティア活動の場の創出に努めていきたい。

サイエンスキャンプ in 室戸

～室戸を知れば地球がわかる！～



1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

世界的に価値のある室戸の壮大な地形・地質、自然を総合的・体験的に学び、人々の生活と自然との関わりに気づき、郷土への親しみをもつ。

○ 実施期間

令和4年7月23日（土）～24日（日） 1泊2日

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

小学5・6年生 15名／20名

○ 活動プログラム

	1日目		2日目
9:30	高知方面送迎バス出発 (はりまや橋観光BT)	6:00	起床
10:00	徳島方面送迎バス出発(美波町由岐支所)	7:30	朝食
12:00	室戸世界ジオパークセンター到着	9:00	海成段丘を観察しよう！ (自然の家展望棟)
12:15	開講式、昼食	10:00	室戸岬を観察しよう！ (スカイライン山頂展望台)
13:15	室戸世界ジオパークセンター見学	11:00	振り返り(室戸世界ジオパークセンター)
14:30	室戸の地質について学ぼう① 「メランジュって何だろう？」	12:00	昼食
15:00	室戸岬探勝 (国立室戸自然の家へ移動)	13:00	閉講式
17:00	入所オリエンテーション	13:15	送迎バス 室戸世界ジオパークセンター出発
17:30	夕べのつどい・夕食	15:00	徳島方面送迎バス到着(美波町由岐支所)
19:00	室戸の地質について学ぼう② 「タービダイトのしましまの層を作ろう！」	15:30	高知方面送迎バス到着 (はりまや橋観光BT)
20:00	入浴		
21:00	振り返り・就寝準備		
22:00	消灯・就寝		

2. 活動の様子

<1日目>

開講式後、室戸世界ジオパークセンターにて、室戸ジオパーク推進協議会地質専門員の柿崎氏よりジオパークの概要について話を聞いた。ジオパークは、大地や周囲の生態系、人々の営みを全て

含む「大地の公園」であること、教育や観光などを通してまちづくりに生かす活動を行っていないと、ジオパークに認定されないことなどを学んだ。また、室戸ジオパークは、日本で9か所しかないユネスコ世界ジオパークに認定されていることも知り、参加者は驚いていた。そのように珍しい室戸ジオパークの大地の謎を9つ参加者に提示し、これからの学習への見通しをもたせ、事業を開始した。

最初の活動として、室戸岬探勝を行った。「ヤッコカンザシの住処がなぜ海面よりずっと上（岩についている）にあるのか」「タービダイト層はなぜしましまなのか」など、室戸の大地の謎を参加者たちに予想させ、話合いの時間をつくった。参加者たちは「波で生物が岩についた」「岩と岩が重なって波で押されてできた」などと予想していた。室戸岬探勝の数カ所の謎について予想し、解説を聞くことで、参加者たちは室戸の大地が昔海底にあったこと、また大地がプレートの動きや地震の働きにより隆起したことを学ぶことができた。岬探勝の最後に訪れた慎太郎像前の地面には、斑レイ岩が混じった砂利があり、磁石にくっつく小石がある。磁石釣りゲームを通して、楽しみながら大地の謎についてまた一つ理解を深めた。

夜には、実際にタービダイト層がどのようにできたかについて実験を通して学習した。空のペットボトルを用意し、2種類の砂を入れる。それに水を入れて振り、どのように地層ができるか調べた。その後、タービダイト層のでき方について付加体の模型を使ったり、プレートの模型を使って地震の起き方を学習したりし、次の日に学習する海成段丘の成り立ちにつながるような実験を見て一日目を終えた。



< 2日目 >

二日目は最初の活動として、標高280mに位置する国立室戸青少年自然の家にあるロッジの展望スロープから景色を見た。柿崎氏の解説のもと、その景色の中にある海成段丘の成り立ちについて学習した。プレートの動きに関すること、波の影響で大地が削られること、海成段丘をよく見ると、1段目、2段目、3段目があることなど、実際に見ながら学ぶことができた。また、宿泊した国立室戸自然の家も海成段丘の3段目に位置しているということで、昨日就寝した場所が海成段丘

の上であることを知り、参加者たちはとても驚いていた。バス移動で山を下る際には、柿崎氏の案内のもと、今2段目、今1段目というように、バスが海成段丘の何段目を走っているのかを知り、平地と坂道の繰り返しになっている大地を体感しながら学ぶことができた。

室戸スカイライン展望台では、室戸岬の東と西の違いについて、実際に見ながら予想した。西側は海成段丘ができる地形のため、大地の上での農作物が盛んに、西側は斜面が急である代わりに、沿岸部の海が深く海洋深層水が溜まる地形となるため、漁業が盛んであることなどを学んだ。大地のつくりと、人々の生活つながりを感じることもできた。

室戸世界ジオパークセンター前海岸では、様々な岩石や砂の混じったメランジュの様子を見ながら、タービダイト層やプレートの動きについての理解を深めた。

最後に室戸世界ジオパークセンターを見学し、本事業のまとめを行った。大地の成り立ち、室戸に生きている生物、人々の生活など、分かりやすい展示資料を通して学習し、今までの謎を解決するとともに自然と人々の生活のつながりを感じることもできた。最後には柿崎氏より、まとめの話があり、室戸の地形を学んだ経験を生かして、自分の住んでいる土地についても調べてみようということをお願いして事業を終了した。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・ 大地にあまり興味がなかったが、タービダイト層や海成段丘の作り方を学び、大地に興味をもてるようになった。
- ・ 海にも山にも森にもたくさんの謎があった。室戸は1回来たことがあるが、このような謎があると知らなかったのも、とてもわくわくした。
- ・ 室戸にはいろいろな魅力があり、自然豊かな町だと思った。
- ・ いろいろな場所に行って調べる活動が楽しかった。
- ・ 自由研究として活用できると思った。
- ・ 友達の意見を聞くことが楽しかった。

○ 事業の成果

- ・ 活動終了後に行った参加者へのアンケートによると、「全体を通しての満足度」は15人中、満足が11人、やや満足が4人となり、満足度は73%となった。
- ・ 昨年度のサイエンスキャンプの反省より、「室戸」を感じる機会が少なかったことが挙げられたことをふまえ、今回は室戸を中心として大地のつくりの謎を解いていく活動を行った。学習内容としては、参加者たちが新たな発見をしたり、室戸の謎が判明して楽しいという意見があったりした点がよかった。
- ・ 活動プログラムとして開発する際には、室戸の大地の謎を解いていくという導入は、参加者の興味を引きやすい内容であるのではないかと感じた。また、室戸市の学校では総合的な学習でジオ教育を取り上げている。毎年、サブテーマが変わるので、プログラム提供を行う場合は、「室戸岬探勝→選択活動（メランジュ、スカイライン、海成段丘、実験）→ジオパーク見学でのまとめ」のような柔軟性をもたせたい。利用団体の目的に応じて選択活動を選ぶことで、ねらいに沿って内容を深めたり、忙しい学校のカリキュラムの中でも時間の調整をしたりしながらプログラムの提供ができるからだ。

○ 事業の課題

- ・ 「活動した中身はどうでしたか」については、満足が9名、やや満足が4名、ややよくなかったが1名となった。ややよくなかったを選択した参加者の意見には、様々な場所に行って調べることは楽しかったとの意見はあったので、楽しめていることはわかった。しかし、学習としての要素が多く、キャンプとしての楽しみが若干少なかったことが原因ではないかと考えられる。
- ・ プログラム開発では、上記の満足度を考慮し、当施設の活動プログラムでもあるミニクルージングを取り入れるのもよい方法だと考えた。クルージングで太平洋の波を体感しながら、海から岬を眺め、大地について学ぶことで、楽しみながらも大地についての学びが深まると考えられる。

Mキャンプ「水族館に泊まろう！」(小学生対象)

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

自然体験活動や集団宿泊体験を通して、青少年の自主性、協調性、社会性を育む。また、水族館での飼育員体験や漁港での水揚げ見学を通して、地域の水産業を知るとともに多彩な職業観を育む。

○ 実施期間

令和4年8月3日(水)～8月5日(金) 2泊3日

○ 対象者・参加者数

小学4～6年生 22名/20名程度 (人数/定員)

○ 協力

むろと廃校水族館、椎名漁港及びその周辺

○ 活動プログラム

	1日目		2日目		3日目
15:00	送迎バス(高知方面)出発	7:00	起床・身支度	5:30	起床・身支度
16:00	送迎バス(徳島方面)出発	7:30	朝食	6:00	大敷網水揚げ見学
17:45	むろと廃校水族館 到着	8:30	むろと廃校水族館 出発	7:00	朝食
		9:00	マウンテンバイク移動	7:30	開館準備体験
18:00	はじまりの会・アイスブレイク	9:30	川の生き物を採取してみよう		飼育員体験
18:30	川の生き物採取準備	12:00	昼食(BBQ)	10:30	ウミガメの体長を計測しよう
18:45	水族館見学	13:00	川で遊ぼう	11:30	ウミガメを放流しよう
19:00	夕食	15:00	マウンテンバイク移動	12:00	昼食(朝どれ海鮮弁当)
19:30	水族館で冒険ナイトツアー	16:00	むろと廃校水族館 到着	12:15	おわりの会
20:00	海洋生物ランプで花火	17:00	夕食		
21:30	イカ墨で暑中見舞いを送ろう	17:30	川と海の繋がりを見つけよう	12:30	むろと廃校水族館 出発
	シャワー浴	18:30	シャワー浴	14:30	送迎バス(徳島方面)到着
22:30	水族館でお泊り	20:00	水族館でお泊り	15:30	送迎バス(高知市内)到着

2. 活動の様子

<1日目>

むろと廃校水族館が閉館した18時に集合し、当事業がスタートしました。まずは、2日目の川の生き物採取のための仕掛けに使うミミズ



を駐車場周辺で探しました。その後は、むろと廃校水族館の館内をガイドしてもらい“昼の魚たち”を観察しました。夕食の後は泊まれないと見るのでできない“夜の魚たち”の様子を観察しました。その後は、夏といえば花火ということで花火をしました。もちろん水族館らしくろうそくではなくカメやサメなど海の生き物から搾取した油に火を燈してそれぞれの匂いの違いなどを感じながら花火を満喫しました。その後は、コロナ禍で中々会えない親戚や友達に向けて“イカ墨”で暑中見舞いを作成しました。どこの水槽の周りで寝るかを各班で話し合い、寝袋で就寝しました。

<2日目>

朝から地元の川へ出発しました。途中からのバスが入れない狭い道ではマウンテンバイクに乗り換えて目的地へ向けてこぎ進めました。川では仕掛けていた罫を確認したり、釣りをしたりして生き物について学びました。冷たい川で水を掛け合ったり、岩から飛び込んだりして夏の川を満喫しました。昼ご飯は川原でむろと廃校水族館らしく学校の机でつくられたBBQコンロで海鮮を堪能しました。日頃とは異なる子どもたちだけのBBQを楽しみました。むろと廃校水族館に戻ってからは実際に採取した生き物を図鑑で調べて、昨晚とは異なる水槽の周りで就寝しました。

<3日目>

最終日は早朝から漁港へ大敷網で水揚げされた魚たちを見学しに行きました。水揚げされた魚についてだけでなく、大敷網の仕組みなども学びました。その後は、むろと廃校水族館に戻り、大きな漁師おにぎりを食べて水槽の掃除やエサやりなど飼育員体験をしました。その後は、ウミガメの甲長を大きなノギスで計測したりして、最後は海に放流しました。最後のご飯は水揚げされた新鮮な海鮮を堪能して解散しました。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・ やることがすべて楽しかった。新しい友達ができ、いろいろな体験ができてよかった。
- ・ ナイトツアーは楽しいし勉強になった。シイラをはじめて食べたがおいしかった。

○ 事業の成果

生き物採取では川から海への種の進化などについても学ぶことができた。魚が漁師さんから自分の口に届くまでの一連の仕事を見学することで食や水産業に関わる仕事について考える機会になった。

○ 事業の課題

たくさんの応募があるため、継続した実施や複数回の実施など更なる事業展開を検討したい。

「室戸ファミリープログラム」

1. 概要

- 第1回（海編）令和4年8月11日（木祝）～12日（金） 1泊2日
 第2回（海編）令和4年8月12日（金）～13日（土） 1泊2日
 第3回（山編）令和4年8月13日（土）～14日（日） 1泊2日
- 対象者・参加者数 各回とも12家族80名程度
 第1回：47名 12家族 高知県在住の小学生を含む家族またはグループ
 第2回：47名 11家族 高知県在住の小学生を含む家族またはグループ
 第3回：56名 12家族 高知県在住の小学生を含む家族またはグループ
- 指導者等
 ボランティアリーダー 3名
 国立室戸青少年自然の家職員 7名（中谷、佐藤、豊田、蛇目、間島、後藤、西田）
- 活動プログラム

	第1回・2回（海編）		第3回（山編）	
1 日 目	11:30	開会式	11:30	開会式
	12:00	昼食（食堂）	12:00	昼食（食堂）
	13:00	海浜活動センターへ移動 バス移動（全員）	13:00	アイスブレイク
	13:45	磯観察 ☂室戸岬探勝、 ジオパークセンター見学	14:00	冒険の森あそび、おもしろ自転車 ☂スポーツ活動、室内フォトビンゴ
	16:00	バス移動（全員）・休憩	16:00	野外炊事（カレー作り）
	17:30	夕べのつどい		
	17:45	夕食（食堂）	19:15	入室・荷物整理
	19:00	手持ち花火	19:30	手持ち花火
	20:00	入浴（大浴室）	20:30	入浴（大浴室）
	21:00	就寝準備、就寝（宿泊棟）	21:30	就寝準備、就寝（宿泊棟）
2 日 目	※各回共通			
	6:30	起床、清掃		
	7:15	朝のつどい、朝食（食堂）、退所点検		
	9:20	流木クラフト		
	10:15	閉会式		

2. 活動の様子

< 1日目（海編） >

日差しが照り付ける真夏の海で、家族ごとに磯観察を体験していただいた。

磯観察では、参加者が協力して小魚を捕まえて喜ぶ姿や、捕まえた生き物を保護者に楽しそうに見せる姿など、家族での会話がたくさんある活動であった。

夜は、手持ち花火を実施し、保護者が子どもに火のつけ方や、遊び方を教える姿を見ることができた。



< 1日目（山編） >

山編では、施設内にある「おもしろ自転車」と「冒険の森」で遊んだ後、家族単位で野外炊事にチャレンジした。子どもと保護者が一緒に包丁を持って調理する姿が見られた。参加者からは、「はじめて包丁を持った。」「たまねぎで涙が出た」など、実体験による感想が飛び交った。



< 2日目（共通） >

全3回を通して、同一のプログラム（流木クラフト）を実施した。



3. 活動の成果と課題

○ 成果

- ・ 少人数の家族利用では人数によってできない活動も、複数団体集まることで実施が可能となり、利用者の体験の幅が広がった。
- ・ 3泊4日の短期間で35家族150名の方々に体験する機会を提供することができた。

○ 課題

- ・ 家族内でのコミュニケーションは取りやすいプログラム構成であったが、他家族と交流する場面が少ないため、意図的に関わる場面を作ったほうが良いと感じた。
- ・ ゆとりのあるプログラム構成で進行したものの、乳幼児がいる家族については、集合時間に間に合わない場面があった。今後、乳幼児が多く集まるようであれば、さらに時間にゆとりを持ったプログラム構成が必要だと感じる。

みんなでエンジョイ！わくわくキャンプ

(ボランティア自主企画事業)

1. 事業の概要

- 事業の趣旨
非日常の体験を通して、参加する仲間と共に全力で楽しむ力を育む
- 実施期間
ボランティア：令和4年8月14日（日）～令和4年8月16日（火）2泊3日
小学生参加者：令和4年8月15日（月）～令和4年8月16日（火）1泊2日
- 対象者・参加者数 （参加人数／定員）
ボランティア （15名／—）
小学4年生 （15名／20名）
- 活動プログラム

	午前	午後	夜
8/14（日） <前日準備日>		12:00 自然の家 着(ボラ) 事前準備	事前準備
8/15（月） <1日目>	09:00 送迎バス 発 11:30 いろむ 着 開講式・昼食	13:00 アイスブレイク 13:30 SUP 16:30 自然の家 着 タベのつどい	夕食・入浴 キャンドルファイア 就寝
8/16（火） <2日目>	朝食（カートンドック） クラフト（スノードーム作り） 昼食	閉講式 13:00 送迎バス 発 16:00 送迎バス 最終到着	

2. 活動の様子

<前日準備日8月14日>

コロナ禍のため、法人ボランティアの活動日程を2泊3日に短縮し、これに伴って子供を対象とした自主企画「みんなでエンジョイ！わくわくキャンプ」を1泊2日で1回のみ実施した。準備期間も例年より短く、また対面活動の制限もあることから過去のノウハウを積極的に活用する形をとり、シンプルかつ効率的なプログラム構成となった。

<1日目8月15日、2日目8月16日>



いろむにて開講式



すぐ立てました



海の上で集合



清らかな灯をともしよう



材料は選り取り見取り



涼しそうなスノードーム

開催直前に体調不良等のキャンセルが相次ぎ、15名の小学4年生と15名の法人ボランティアでの事業となった。1日目の午後はSUPを楽しんだ。子供たちはスムーズに大きなボードの上に立ち上がり、海の上をミズスマシのように自由自在に動き回っていた。自然の家ではキャンドルサービスの清らかな光の中で思い出に残る夜を過ごした。

朝食は野外食のカートドックを各自で調理して食べたのち、スノードーム作りをした。瓶の中に思い思いの材料を液剤と共に封入した。夏らしいデザインの涼しげなスノードームとなった。

3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・ぜんぶがたのしかったです。とくにみんなでうみでサップをやるのがたのしかった！またやりたい！！
- ・ホットドックの焼き方がいいと思った、サップを初めてやったけど、安心してできた。
- ・初めてさんかしたけどすごく楽しかった。友達もできたしごはんもおいしかったし、SUP もスノードーム作りもすごく楽しかった。またこういうキャンプがあったらぜひさんかしたいまたここにきたい。

○ ボランティアリーダーの感想

- ・今回のキャンプのねらいを理解し、ぜんいんときょうゆうできているのか、また各プログラムの目標を理解し全員と共有できているのか、その目標を達成するためにGLとSLで話ができているのか。ここを意識すると動きがもっと良くなると感じました。(大学3年・男)
- ・子供たちの考え、発想力に驚いた。(大学1年・女)
- ・今回初めて自主企画に参加して、学生だけで考えて動いて決定する難しさについて実感した。たくさんトラブルがあって職員の方々や歴代の先輩方へ迷惑をかけてしまったので、次はこのようなことがないように今回の学びを活かしたいと思いました。(大学3年・女)

○ 事業の成果

- ・企画したリーダー間では相互の連絡不足・連携不足といった面を反省点として挙げているものが多かったが、コロナ禍による限定された活動条件の中で精一杯やり遂げたのではないかと思える。子供たちにとっても夏の楽しい思い出を提供することができたので、現状の社会状況の中で実施できたものとしては十分以上のものであると考えられる。

○ 事業の課題

- ・ボランティアリーダーの間でオンライン主体の企画ミーティングの手法が完全に確立しきっていないため、細かな部分での齟齬や積み残しが目立った事業運営となった。対面ミーティングではカバーできていた部分であり、オンラインの限界を改めて感じる事となった。

自然体験活動指導者養成研修（NEAL リーダー）

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

青少年向け自然体験活動プログラムにおいて、子供の発達段階に応じて適切かつ安全に指導ができる自然体験活動指導者（NEAL リーダー）を養成する。

○ 実施期間

令和4年11月26日（土）～11月27日（日）および令和5年1月22日（日）

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

自然体験活動を指導する意思のある18歳以上の方（15名／20名程度）

○ 活動プログラム

11月26日（土）		
12：00 開講式・ガイダンス	13：00 自然体験活動の技術	夕食（食堂食）
20：00 自然体験活動の指導	21：30 入浴・就寝	
11月27日（日）		
07：30 朝食（食堂食）	09：00 安全管理①	10：30 自然体験活動の特質①
12：00 昼食（食堂食）	13：00 自然体験活動の特質②	14：30 講義のまとめ
1月22日（日）		
09:00 安全管理②	11:10 対象者理解	12:40 昼食休憩
13:30 青少年教育における体験活動	15:10 ガイダンス	15:40 認定試験

2. 活動の様子

令和3年度に引き続き、1泊2日の宿泊研修と1日分の日帰り研修を組み合わせた日程で開催した。宿泊研修ではフィールド演習を中心とした1泊2日のプログラムを実施した。NEAL 制度の仕組み、NEAL リーダーの役割を理解するガイダンスの後、「自然体験活動の技術」では実技演習の中で野外炊事棟にて一人一台のかまどを割り当て、マキ組みから着火、火の管理から消火、後片付けの過程をすべて一人で実施してもらった。最初から最後まで誰の力も借りず自分だけで行う貴重な経験となった。

WILDBLUE 代表の田辺秀氏より様々な自然体験活動のプログラム紹介の他、プログラムにはそれぞれの狙いがあり、導入・展開・まとめの構成のなかで魅力的で楽しく感動を伝えられることが大事であることが提示された。「自然体験活動の特質」では所内に活動の場を移し、ネイチャーゲームを織り交ぜながら地域の自然体験活動の特色を理解する内容を学んだ。「自然体験活動の指導」では高知県キャンプ協会の瀬沼健氏が指導者としての基本的な心構えについての講義を行った。高知大学朝倉キャンパスでは講義形式と屋内演習を実施した。



3. 事業の成果と課題

○ 事業の成果

- ・事前に参加者の要望オーダーを把握することができたため、主催者側が伝えたい内容と参加者側が学びたい内容を結び付けやすく、効率的な講義内容で実施することができた。
- ・法人ボランティアのステップアップ研修を兼ねることができたことで、今後の活動により深みを持たせられる可能性が広がっている。

○ 事業の課題

- ・当施設の法人ボランティアのほぼすべてが大学生であり、所属大学の課外活動ガイドラインの活動ステップを遵守してボランティア活動を行っている。県外からの来訪者や県内でも不特定の他者との接触を禁止する活動ステップのため、令和3年度と同様に広く事業募集を行わず、法人ボランティアのみを参加対象とした。このため、県外からの講師招聘ができない、野外炊事など大学側から活動内容に制限がかけられている内容を取り入れられないといった問題はあるが、参加者が少人数となっても対面形式で開催できることメリットの方が大きいため、コロナによる制限がかかる間はこの形態を継続することとなる。

イングリッシュキャンプ

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

外国語を用いた体験活動を通して、異文化・言語に体験的にふれあい、外国語について学ぶ意欲を高めるとともに、外国人とコミュニケーションを図る素養を高める。

(外国語指導助手の活用による、質の高い外国語のコミュニケーション SDGs 対応目標 4)

(外国語、異文化を知り、他者との違いを受け入れる気持ちを育む SDGs 対応目標 10)

○ 実施期間

令和4年12月3日(土)～4日(日) 1泊2日

○ 対象者・参加者数

小学4～6年生 19名 (募集20名)

○ 指導者等

高知県在住の外国語指導助手(ALT) アメリカ3名、イギリス2名

国立室戸青少年自然の家職員2名

○ 活動プログラム

	12月3日(土)		12月4日(日)
9:30	高知方面送迎バス出発 (はりまや橋観光BT)	6:00	起床
12:00	自然の家到着	7:45	朝食
12:15	昼食	9:00	ミッションゲーム
13:45	開講式・入所オリエンテーション	10:30	流木クラフト
14:00	英語で自己紹介・名刺交換	11:30	質問タイム
	フィールドイングリッシュビンゴ	12:00	昼食
17:00	夕食・自由時間	13:15	閉講式
18:30	キャンプファイア ・外国人講師のレクリエーションや ダンス	13:30	自然の家発
20:00	入浴	16:30	高知方面送迎バス到着 (はりまや橋観光BT)
22:00	就寝		

2. 活動の様子

<1日目>

今年度は、高知県在住の外国語指導助手(ALT)を講師として5名招き、イングリッシュキャンプを開催した。SDGs 対応目標4に関して、児童5グループに対してALT5名をそれぞれ配置することで、質の高い英語に常に触れられる環境を作った。5つのメインの活動においてもALT5名に分担し

て英語で説明をしてもらうことで、児童は聞き取れる英語から、活動内容を予想しようとしていた。また、SDGs 対応目標 10 に関して、他者との違いを知り、違いを受け入れる力につながるように、日本と外国との考え方や文化の違いを知ることができるような質問をミッションゲームに取り入れたり、質問タイムを設けたりした。

開講式の後、ALT が名前や出身国、好きな食べ物や趣味について英語で自己紹介を行った。児童は緊張している様子であったが、ALT が話す英語を一生懸命聞いて理解しようとしていた。その後、ニックネームや好きな動物を英語で記入した名刺を作成し、英語を使って互いに自己紹介しあった。ALT、ボランティアリーダー、他の児童と英語を使って楽しみながら名刺を交換していた。

次に、フィールドイングリッシュビンゴの活動を行った。活動中は、ALT が英語で参加児童に積極的に関わり、児童は楽しみながらゲームを行う中で自然と英語を使うことができた。新しく試行した活動であり、英語に十分触れられる活動であったが、難易度が高かったので、児童、ALT、ボランティアリーダーの事後アンケートを参考にしながらよりよい活動に改善していきたい。一方、ALT が優しく声かけをしてくれたこともあり、英語に抵抗のある児童も ALT とコミュニケーションを取ろうとする姿が多く見られた。

夜間の活動では、キャンプファイアを行った。ALT が準備したレクリエーションやダンスを体験する中で、楽しみながら英語に慣れ親しんでいた。また、ボランティアリーダーにもギターを生演奏の協力をしてもらい、ALT に英語で歌を歌ってもらった。児童は歌詞カードを見ながら、歌える部分を見つけては、ALT に合わせて一生懸命歌っていた。



< 2日目 >

ミッションゲームでは、5つのグループに分かれ、各グループが ALT と自然の家の施設を回り、6つのミッションに挑んだ。今年度は、ALT の母国と日本との違いを感じられるような質問が書かれた質問カードを使うミッションも取り入れた。流木クラフト作りでは、英語で ALT とコミュニケーションをとりながら手順を確認している児童がいたり、完成した作品を ALT に見せ、感想を英語で教えてもらいながら話したりする児童もいた。また、室戸自然の家にホームページにもアップされている流木の動画「僕がキミに出会うまで」を視聴し、ボランティアリーダーに英訳をもらった。日本語と英語を比べながら聞いたり、ジェスチャーや表情の大切さを知ったりすることができた。2日間の活動を通して、児童は自然体験活動を行う中で自然に英語を聞き、学んで使い、自ら進んで ALT と関わろうとする態度を身に付けていた。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・全体を通してとても楽しかったし、ALT やリーダーが優しく教えてくれてよかった。
- ・外国の人と交流ができて楽しかったし、普段話すことがないのでよい機会になった。
- ・ALT が今まで知らなかった英語を教えてくれた。
- ・もっと英語を勉強したい。少し話せるようになって、英語って楽しいなと思った。
- ・友達が増えた。こういう企画はいいと思うから続けてほしい。
- ・みんなで協力することができた。
- ・英語の割合をもっと増やしてほしい。

○ 事業の成果

- ・ALT による全体での活動説明、ALT を各グループへ常時配置することで、英語に触れる機会を増やすことができ、児童が英語に慣れることができた。休憩時間にも、ALT が進んでゲームをしてくれたり、児童と話をしてくれたりすることで、楽しみながら英語を使ったり覚えたりすることができ、抵抗感なく英語に触れることができる2日間となった。
- ・当施設の立地や自然を生かしたフィールドイングリッシュビンゴや流木クラフトなど様々な活動を通して楽しみながら英語を学ぶことで、自然に学び、自ら ALT や友達と積極的に英語で関わり、コミュニケーションを図ろうとする態度を育むことができた。

○ 事業の課題

- ・前年度の反省を生かし、ALT のレクリエーションについて、夜間でも安全に活動できることに配慮したため、危険のない活動で行えたことはよかった。一方、ルールが難しいゲームもあり、児童が理解できなかったり、時間がかかったりしたレクリエーションがあった。安全面も配慮するとともに、誰もが理解し、実践できるように内容の簡略化も含めて事前打ち合わせにおいて話す必要があった。
- ・参加児童は活動を楽しむ中で英語に十分触れることができていた。質問タイムを設けたり、あまり全体の前で話していない児童に食事の挨拶をお願いしたりするなどして、少しでも英語を使う、聞くという経験が増えるよう心掛けた。担当職員が全ての指示を意図的に英語、日本語を使い分けられることが望ましいので、担当職員の英語力を向上させていきたい。

あつまれ！絵本の森

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

絵本専門士による絵本の読み聞かせや各プログラムをとおして、子どもの感性を育むとともに親子の絆を深めるきっかけづくりの場を提供する。

○ 実施期間

- ① 令和4年12月17日（土） 10:00～11:30（高知県立ふくし交流プラザ）
- ② 令和4年12月17日（土） 14:00～15:30（高知県立ふくし交流プラザ）
- ③ 令和4年12月18日（日） 10:00～11:30（のいちふれあいセンター）
- ④ 令和4年12月18日（日） 14:00～15:30（のいちふれあいセンター）

○ 対象者・参加者数

- ① 小学生以上の親子 5 家族 11名／15組程度 （人数／定員）
- ② 幼児・小学生の親子 7 家族 16名／15組程度 （人数／定員）
- ③ 幼児・小学生の親子 17家族 48名／15組程度 （人数／定員）
- ④ 年長児・小学生の親子 1 家族 2 名／15組程度 （人数／定員）

○ 活動プログラム

①・③	②・④	内容
10:00	14:00	受付・はじまりの会
10:10	14:10	プログラム ①親子で楽しむ絵本時間『私は私のことが好き』（講師：森實摩利子氏） ②高知の絵本作家さんのおはなし（講師：大木由香氏） ③絵本でつながる時間-読み継がれる絵本と新作絵本-（講師：横田潤子氏） ④家族と思いを伝えあおう-絵本で楽しくSDGs-（講師：弘田恵子氏）
11:20	15:20	おわりの会・解散

2. 活動の様子

①親子で楽しむ絵本時間『私は私のことが好き』（講師：森實摩利子氏）

絵本の読み聞かせや親子での絵本の読み合いなどの活動をとおして、ありのままの自分を『かけがえのない存在』として肯定的、好意的に受け止めることができる感覚である“自己肯定感”について学び、自分自身の「えいところ」を探しました。親子でたくさんの絵本に触れ、自分自身について考える素敵な時間となりました。

②高知の絵本作家さんのおはなし（講師：大木由香氏）

高知の絵本作家さんの絵本をたくさん紹介してもらい、興味ある絵本を自分でじっくり読んだり、親子で読み合ったり、なかにはお兄ちゃんが妹に読み聞かせをする場面もありました。紹介された絵本の中には怖すぎて発売中止になった「幻の絵本」もあり、子どもも大人も興味深々でした。地元の絵本作家さんの絵本にふれて、親子や兄弟で絵本を楽しみました。

③絵本でつながる時間-読み継がれる絵本と新作絵本-（講師：横田潤子氏）

お父さんお母さんの時代から読み継がれている懐かしい絵本や新作絵本など、たくさんの絵本を親子で楽しみました。ワークショップでは「声の道」に親子で挑戦し、相手に気持ちを伝える大切さを学びました。世代をこえて愛されている絵本などをおして親子でつながる時間を満喫しました。

④家族と思いを伝えあおう-絵本で楽しく SDGs-（講師：弘田恵子氏）

よく耳にして知っているようでまだまだ知らないことも多いSDGsについて絵本をおして分かりやすく楽しく学びました。そもそもなぜSDGsが始まったのか？海外では同年代の子どもたちがどのような暮らしをしているのかなど絵本をおして、SDGsを他人事ではなく自分事に考えることができました。

3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・絵本を読む機会がなかなかないので親子で楽しめ良かったです。
- ・自分自身についてあまり意識していなかったが書いてみるとたくさんあり、おもしろかった。
- ・久しぶりに絵本を感じて自分と向き合えてよかったです。
- ・とっても楽しかったです。高知の絵本作家さんのすごさが分かりました。
- ・色々な本を知るきっかけができてよかったです。年齢別のおすすめの本の冊子が便利でよかった。

○ 事業の成果

普段なかなか絵本にふれる機会が少ない参加者の皆さんだったが、改めて絵本の良さを再認識することができ、親子での絵本にふれる機会を増やすきっかけづくりができた。また、絵本をおして自己肯定感や地元の絵本作家さん、SDGsなどについても分かりやすく学ぶ機会となった。

○ 事業の課題

参加者の満足度も高かったが、小学生の参加が少ないため広報を再検討する必要があると感じた。



お正月を遊びつくせ！書き初めキャンプ



1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

書き初めや凧揚げ・かるた遊びといった正月の文化、風習に触れ、日本の伝統についての関心を深める。

○ 実施期間

令和5年1月7日（土）～8日（日） 1泊2日

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

徳島県南部～高知県在住小学生4～6年生 24名／30名

○ 活動プログラム

1月7日（土）	1月8日（日）
9:00 送迎バス 出発	6:30 起床・清掃
12:00 開講式	7:30 朝のつどい
12:20 昼食（食堂食）	7:45 朝食（食堂食）
13:20 アイスブレイク	退所点検
14:00 昔遊びラリー	9:00 巨大年賀状作成
16:00 俳句を詠もう	11:30 ふりかえり
17:00 タベのつどい	12:00 昼食（食堂食）
17:15 夕食～正月料理を食すぜよ	13:10 閉講式
19:00 書き初め会	13:30 送迎バス 出発
21:00 入浴・就寝準備	
22:00 消灯・就寝	

2. 活動の様子

<1日目>

高知県内の4～6年生24名が参加した。大学生ボランティアリーダーによる自主企画であり、その運営のほとんどをリーダー9名が行った。昼食後、アイスブレイクをしたのち、6つの昔遊び（コマ回し・お手玉・けん玉・ダルマ落とし・折り紙・竹馬）を体験した。予想以上に盛り上がり、時間を忘れて熱中していた。その後、俳句について学び、それぞれが思いついた句を短冊に記していった。夕食は、お正月料理（特別食）を堪能した。食堂の店長さんから、地元の食材や伝統の調理方法について説明があり、関心が高まる様子が伺えた。夜は、書き初め会。幾度となく練習を重ねたのち、清書をしていった。なかなか思うようにいかず、戸惑う場面も見られたが、班員で相談したり、ボランティアリーダーや職員のアドバイスを受けながら作成した。



<2日目>

朝のつどいには、全員元気に参加した。その表情からは、昨日の満足感とともに、本日のプログラムへの期待感と、仲間づくり（リーダー含む）がうまくいっていると感ずることが出来た。巨大年賀状作成では、班員がそれぞれの意見を出し合い、相談し、構成を考えた。意見のぶつかりもありながら、譲り合い、調整していく中で、それぞれの班で素晴らしい作品を作り上げた。ボランティアリーダーの発案で、鮮やかな色彩の霧吹きを用い、それぞれの作品にさらなる魅力を加えた。巨大年賀状と一緒に撮った集合写真は、後日、参加者全員に年賀状として送付した。参加者はもちろん、保護者からも御礼をいただき、改めて参加者の思い出に残る事業になったことを実感できた。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想 アンケートの満足度は96%

- ・ 巨大年賀状制作がみんなと協力出来て楽しかった。
- ・ 昔遊びが体験（特に竹馬）できてよかった。
- ・ 新しい友達ができてよかった。リーダーさんが優しかった。など

今回の事業において、24名中16名が過去に室戸自然の家の事業に参加したことがあり、アンケートの中には、「今回が一番良かった」「何回来てもいつも楽しい」という内容がたくさんあった。これまでの事業の内容やボランティアとのかかわりに対して高評価されていることを誇りに思う。なお一層精進したい。

○ 事業の成果

- ・ 「書き初め」に精通している職員がおらず、戸惑いはあったが、外部（ボランティアリーダー）の連携することで、良い事業になった。
- ・ 「書き初め」に限定するだけでなく、正月遊びや、正月料理をテーマとして事業に組み込むことでより充実した内容になった。

○ 事業の課題

- ・ 日程について、参加希望は25名であったが、コロナ禍における学校行事や部活動の大会の変更で、不参加を余儀なくされたものがいた。冬休みの日程を考慮して計画する必要がある。
- ・ 今回は、ボランティアリーダーの中に、書道に精通した人材がいたので事業が成立したが、その他の場面でも外部の人材（地域の人など）を活用すれば、さらなる事業の発展が期待できる。昔遊びに地元の人に参加を呼び掛ける、書道に関しても高校（大学）の書道部や、地域の指導者と連携するなど、地域を巻き込んだ事業を展開できるよう計画していきたい。

Mキャンプ「水族館に泊まろう！」(中学生対象)

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

自然体験活動や集団宿泊体験を通して、青少年の自主性、協調性、社会性を育む。また、水族館での飼育員体験や漁港での水揚げ見学を通して、地域の水産業を知るとともに多彩な職業観を育む。

○ 実施期間

令和5年1月14日(土)～1月15日(日) 1泊2日

○ 対象者・参加者数

中学1～3年生 12名/20名程度 (人数/定員)

○ 協力

むろと廃校水族館、椎名大敷組合、国立室戸青少年自然の家指導員会

○ 活動プログラム

	1日目		2日目
14:00	送迎バス(高知市内) 出発	6:00	起床・身支度
17:00	むろと廃校水族館 到着	6:30	朝食
17:15	はじまりの会	7:00	大敷網水揚げ見学
17:45	水族館ガイド	9:00	【応用】朝どれ魚介類の調理
18:15	【基本】土佐包丁研ぎ体験	12:00	昼食
19:00	夕食	13:00	おわりの会
20:00	【実践】魚捌き練習	13:30	むろと廃校水族館 出発
21:15	水族館冒険ナイトツアー	16:30	送迎バス(高知市内) 到着
21:45	宿泊準備		
22:00	水族館でお泊り(就寝)		

2. 活動の様子

<1日目>

むろと廃校水族館が閉館した17時に集合し、当事業がスタートしました。まずは、むろと廃校水族館の館内をガイドしてもらい“昼の魚たち”を観察しました。その後は【基本】の土佐包丁の研ぎ方を教えてもらいました。高知の名産である土佐刃物の歴史も聞きながら、包丁研ぎに挑戦しました。しっかり研げているか新聞紙で試し切りをしながら魚を捌くために一生懸命に包丁を研ぎました。その後の夕食は地元の飲食店でご用意いただいたお弁当を堪能しました。夕食の後は【実践】の魚捌き練習のため、むろと廃校水族館で飼育している魚たちのエサになる魚を3枚におろし

ました。班毎の友達同士で教え合いながら、途中また包丁を研ぎなおしながら試行錯誤しました。その後は、泊まらないと見ることのできない“夜の魚たち”の様子を観察しました。いつも見ている魚たちの様子とは全く違い、スタッフにたくさん質問する様子がみられました。その後は、水槽の周りに寝袋を敷いて就寝しました。今回もボラが水槽から飛び出してくるハプニングも発生して、大盛り上がりの就寝となりました。



<2日目>

起床後は寝袋を撤収して、朝食を食べた後、椎名漁港へ大敷網でとれた魚たちの水揚げを見学に行きました。漁港では水揚げされた新鮮な魚をもって記念撮影もしました。むろと廃校水族館に戻ったらメインイベント【応用】の漁港から持って帰ったブリ、サワラ、シイラ、アカヤガラを各班で捌いて盛り付けました。昨晚のエサ用の魚と違い大きな魚でしたが、各班で協力して綺麗に捌いていました。サワラは藁でタタキにして盛り付けました。魚のアラから出汁をとったみそ汁と一緒に捌きたての魚を堪能しました。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・魚を捌くのが楽しかった。
- ・水槽の横で寝ることができて、目開けたら魚がいるのが楽しかった。
- ・魚を捌くにも色々な方法や工夫があり、どうやったら美味しく調理できるか色々あると思った。
- ・一つ一つ丁寧に接してくれてうれしかった。とても交流が深まりたのしかった

○ 事業の成果

参加者の多くが魚はお刺身の状態でした見たことがなかったが、実際に漁港でとれたたての魚にふれ、自ら研いだ包丁で捌く一連の体験をとおして食について考える機会となった。また土佐包丁や藁焼きなど高知の伝統についても学ぶことができた。

○ 事業の課題

小学生対象と異なり、参加者が少なかったため、開催時期や広報の方法の再検討が必要と考える。

むろと元気塾

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

自然体験活動をととして、幼児、児童、生徒のコミュニケーション能力を高めるとともに自己肯定感の向上を図る。

○ 実施期間

令和5年2月18日（土）～19日（日） 1泊2日

○ 対象者・参加者数

児童養護施設を利用している児童（4名）・生徒（3名）、指導者（3名） 計10名

○ 活動プログラム

2月18日(土)	2月19日(日)
8:30 児童養護施設 出発	6:30 起床・つどい・移動
11:30 自然の家到着 入所オリエンテーション	自主点検
12:00 昼食	7:45 朝食
13:00 工作（七宝焼き・流木クラフト）	8:30 自然の家発
14:00 冒険の森遊び	9:00 廃校水族館見学
15:00 野外炊事（ピザ、カレー）	10:00 水族館出発
19:30 星空観察・ナイトハイク	10:30 ドルフィンセンター (トレーナー体験)
20:30 就寝準備・入浴	11:30 ドルフィンセンター出発
22:00 就寝	13:00 トリム公園・昼食（弁当）
	15:00 児童養護施設到着

2. 活動の様子

<1日目>

児童養護施設を連携して、むろと元気塾を行った。児童生徒7名、指導者3名、計10名が本事業に参加した。普段施設外での活動が少ない参加者にとって、日常では体験できないプログラムによりどの参加者も楽しく活動することができた。

昼食後は、展望棟にて工作活動を行った。七宝焼きでは、絵の具の材料がガラスであることに気付いたり、焼き立ての作品が透明から徐々に色が変わっていく様子を見たりして驚いていた。流木クラフトでは、紙やすりで削る度につるつるになっていく流木を触りながら製作し、できた作品をうれしそうに職員に紹介していた。どちらの活動も参加者は集中して取り組み、分からないことをお互いに教え合いながら楽しく取り組むことができた。また、夜が曇りの予報であったため、もともと予定していた天体望遠鏡体験（むろと市の景色）も行った。

その後、2名の小学生はおもしろ自転車、残りの参加者は所内散策を行った。おもしろ自転車では、参加者が様々な種類のおもしろ自転車に興味をもち、楽しみながら自然の中で思い切り体を動

かすことができた。所内散策では、室戸自然の家の施設を巡り、自然や所内のアート作品を見たり、職員のドラムを借りてドラム演奏体験をしたりした。どちらの活動も楽しく活動できた。

野外炊事では、男子がカレー作り、女子がピザ作りを担当し調理した。自分たちだけで作ることを話し、できる限り大人が手を出さないようにしながら活動を行った。それぞれの参加者が次にすることを考えながら、班のメンバーで分担・協力し、手際よく調理することができていた。ピザもカレーもおいしくできたようで参加者は残さず全部食べていた。

星空観察・ナイトハイクでは、星の話をした後、星を見る丘へ歩いていった。残念ながら曇りのため、星を見ることはできなかったが、室戸の街並みの夜景が少し見えたり、暗闇を歩いたりすることが参加者にとって楽しい経験となった。また星に関する絵本を数冊準備したところ、参加者はとても興味をもち、交代しながら読んでいた。

<2日目>

朝食後、むろと廃校水族館見学を行った。大きなウミガメや、エイに驚いたり、タッチプールでたくさんの生物に触れたり、ボラのエサやりを行ったりした。普段なかなか関わることのない生物と触れ合うことができ、参加者はとても楽しそうであった。

次にドルフィンセンターにて、トレーナー体験を行った。イルカのクイズでイルカの秘密に驚いたり、イルカのえさやりを行ったりすることができた。また、イルカへの指示の方法を覚え、イルカの拍手、ダンス、ジャンプなどを観察することができた。特に大きなイルカが勢いよくジャンプする姿は大迫力で、参加者は驚いていた。

水族館の様々な魚を観察したり、イルカの生態を知ることで、生き物に興味関心をもったり、命を大切にしようとする気持ちをもったりすることができた。

普段、なかなかできないことが経験できた2日間となり、参加者は大変満足してむろと元氣塾を終えた。

3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・一日中楽しかったので、また自然の家に来たい。(小学生)
- ・野外炊事が楽しかったが、星が見えなくて残念だった。流木を紙やすりでこするときれいになることに驚いた。(小学生)
- ・イルカがすごくかわいかった。また夏に来て一緒に泳ぎたい。(中学生)
- ・工作や体験、野外炊飯など、子どもたちが貴重な体験ができてよかった。(職員)
- ・洗濯、清掃など日常生活で実践できるようなものも取り入れるなどすると、自立支援の力を楽しく協力しながら学べると思う。(職員)

○ 事業の成果

- ・普段経験できない活動内容をたくさん取り入れることで、参加者が驚きとワクワクを感じながら2日間を過ごすことができた。
- ・打ち合わせの段階で先生から、子どもたちに様々な経験をさせてあげたい、自分たちで生きていく力を少しでも身に付けさせたいというねらいを聞いていたので、自然の家職員も参加者の力だけで活動できるように、助言を少なくするなどして関わるることができた。

- ・参加者の中でも高学年がリードして、低学年に指示したり、教えたりする姿が見られた。また低学年も、自分から進んで、食後のみんなの台拭きを行うなど、進んで協力する姿が見られた。
- ・自然の家の宿泊を通して、学校以外の施設でのルールやマナー、自分の荷物の整理、ベッドメイキング、片付けなどについて学ぶことができた。

○ 事業の課題

- ・今年度は台風や新型コロナ感染拡大の影響で、夏の実施ができず海活動が実施できなかったが、工や野外炊事、見学を通して2日間楽しく活動できたことがよかった。来年も予定変更が起こることも予想されるので、臨機応変に対応し、充実した活動ができるようにしていきたい。
- ・活動の楽しさを十分感じてもらったので、さらに自立支援を目標として、日常生活に生かせるような活動も取り入れることを検討してもよいと思った。自分たちで洗濯をする、大掃除をする、宿泊施設の強みを生かした活動内容を検討していきたい。

ふれあい通学合宿



1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

子どもたちが家族から離れ、他校の児童と共同で生活し日常的な生活体験を自分たちの力でやることを通して、子どもたちの社会性・自主性などの「生きていく力」を育むとともに、中1ギャップの解消を目指す。

○ 実施期間

令和5年2月26日（日）～令和5年3月4日（土）6泊7日

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

室戸市内の小学校5・6年生 9名／30名

○ 活動プログラム

		2/26（日）	2/27（月） 2/28（火） 3/2（木）	3/1（水）	3/3（金）	3/4（土）
朝	6:00 6:40 7:15 7:45 9:00		起床・洗面 朝食 自然の家発	起床・洗面(+シーツ) 朝食 自然の家発	起床・洗面 朝食 自然の家発	6:30 起床・洗面 7:30 朝のつどい 7:45 朝食・清掃・荷物 9:00 野外炊事 (カレーライス)
昼	13:20 ～45 14:00 15:00 16:00 16:30	各小学校送迎場所出発 自然の家着 開講式 オリエンテーション アイスブレイク 草スキー(雨:ペタンク)	学校 各小学校送迎場所出発 自然の家着	学校 各小学校送迎場所出発 自然の家着(15:50) シーツ受取り	学校 各小学校送迎場所出発 自然の家着	13:00 閉講式 13:30 自然の家発 13:45 各小学校送迎 ～14:15 場所着
夕	17:00 17:15 18:15 19:30 20:00 21:30	タベのつどい 夕食 班会 荷物移動 シーツ受取り 入浴 1日の振り返り 就寝	タベのつどい 夕食 学習・読書 活動 入浴・洗濯※ 1日の振り返り 就寝	タベのつどい 夕食 学習・読書 中学校に向けての話 入浴・洗濯※ 1日の振り返り 就寝	タベのつどい 夕食 キャンドルファイア 入浴・全体の振り返り 荷物をまとめる 就寝	※洗濯 月・水→女子 火・木→男子

2. 活動の様子

<2月26日(日)>

室戸市内の小学校から5、6年生9名が集まり、本年度のふれあい通学合宿が始まった。違う学校であるが顔見知りの児童もいたが、これから始まる1週間への不安と緊張からか、表情が硬い参加者もいた。しかし、合宿初日にボランティアリーダーが考えたアイスブレイクや草スキー、夕食、班目標の模造紙作りなど、班の活動や楽しい活動を多く取り入れたことで、少しずつ緊張がほぐれ笑顔が見られるようになってきた。

1班は「協力して、いろんなことにちょう戦する!」、2班は「みんなで協力し合って、仲を深めたり楽しい一週間にしよう」という班の目標をたてた。

宿泊棟に移動し、ベッドメイクをした後で入浴をした。翌日から洗濯体験もしてもらう計画をしているので入浴後に洗濯機の使い方を説明し、検温や1日の振り返りを行った。明日からの登校に備えて子供たちは午後9時30分には布団に入り眠った。



<2月27日(月)~3月2日(木)>

子供たちは毎朝6時に起き、身支度をし、学校に行くバスに遅れないよう行動をし、学校から帰ってきたらタベのつどい、夕食、宿題、読書、レク練習、入浴、洗濯、1日の振り返り、就寝。と、毎日規則正しい生活を送った。

ボランティアリーダーが色々な面で子供たちの様子をしっかりと見てくれた。食事の面で、ある児童が食べる気持ちがあるが量が多いということを報告してくれ、配膳の時にその児童に量を減らすか確認をとるようにした。その日からは、全員が時間内にほぼ完食できるようになり、その児童自身も完食できるようになったことを喜んでいた。

学校には毎日自然の家のバスで登下校をしたが、子供たちはボランティアリーダーが居てくれることに喜びや安心を感じていたようである。

学校から下校後は、タベのつどいに参加した。子供たちは、国旗や所旗の降納や代表挨拶の仕事を頑張っていた。

規則正しい生活習慣と学習習慣を身につけるために、毎日1時間の学習の時間を設けた。学習時間中は静寂の中で集中して学習に取り組み、分からないことがあっても友達やボランティアリーダーにすぐ聞くのではなく、まずは自分で教科書を見直したり辞書をひいたりする等、自ら学ぶ習慣づけを重視した。宿題が早く終わった児童は読書をするようにした。いつもワイワイと賑やかな児童も学習時間の時は静かに集中しメリハリをつけていたことに感心させられた。

3/3(金)のキャンドルファイアに向けて、各班、毎日出し物の練習をした。職員やボランティアリーダーがあえてあまり口出しをしないようにし、子供たちの自主性を重んじるようにした。初めはどこか他人任せなところも見えたが、4日目辺りで子供たち側から「このままだとちょっと

間に合わんよ。ちょっと真剣にもう1回話し合おう。」という声が出始め、自主的に真剣に取り組もうとする態度が見られるようになった。

3/1(水)には、国立室戸青少年自然の家の中学校籍の主任企画指導専門職が「中学生に向けての話」という演題で講義を行った。基礎学力を定着させるためにはどうしたらよいか、また、集団生活をおくる技能を高めるためには？、小学校と中学校の違いは？などの内容に子供たちは楽しみながらも真剣に耳を傾けていた。児童の様子を観に来られていた校長先生が「いいお話を聞けたねえ。とても参考になったねえ。」と児童に話しかけていたことが嬉しく思えた。



< 3月3日(金) >

ふれあい通学合宿最後の夜はキャンドルファイアを行った。静粛な雰囲気の中で、子供たちとボランティアリーダー全員で一つの輪を作り、数千年の間火を大切に守り続けてきた先人に思いをはせながら、一週間を振り返った。

各班ごとの出し物は、リコーダー演奏の曲当てクイズや寸劇、全員の児童やボランティアリーダー一人ひとりに関する〇×クイズ、縄跳び披露など多種多様で、この短期間でよく考えたなと感心させられた。大人からやらされたものではなく、子供たち自らが話し合っつくりあげたものなので、どの子供も生き生きと発表していて大変楽しい活動となった。



< 3月4日(土) >

ふれあい通学合宿最終日の朝は、一週間友達と生活を共にした宿泊棟の清掃を丁寧に行った。

退所点検後、全員で野外炊事（カレーライス作り）を行った。子供たちは火おこしや食材切りなど友達と協力しながら楽しく活動していた。ご飯やカレールの出来具合が見事で、1週間を共に過ごした成果があらわれたと感じることが出来た。

閉講式では、子供たちからボランティアリーダーへの絵や手紙のサプライズもあり、友達やボランティアリーダーとの別れを惜しんで涙ぐむ姿も見られ、卒業式の様な雰囲気にも包まれた。

1週間という期間ではあったが子供たち一人ひとり成長した姿が見られ、とてもたくましく感じた。5年生の子供たちが、「また来年もふれあい通学合宿に参加したい。」と言っていたことが嬉しく思えた。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・知らない友達と生活をして、とても仲良くできた。
- ・とても楽しかったし、一週間が短く感じました。
- ・今まで部屋が汚かったけど、それを直そうと思った。
- ・自分の意見がいっぱい言えた。
- ・今までより人を大切にできるようになりました。
- ・回りをよく見る力とみんなと協力する力がついた。
- ・最初は早寝早起きができていなかったけど、早寝早起きができるようになった。
- ・（他人の力を借りずに）自分でしたいことがいっぱいになった。
- ・事業全体を通して、自分が成長できたと思いました。
- ・違う学校の子たちやリーダーさんと仲良くなれたことがうれしかったです。
- ・親や大人をたよらずに一人で色々できるようになったことが自分の中の変化です。

○ 事業の成果

- ・以前、月曜日スタート日曜日終わりにした時、疲れて月曜日に学校を休んだ児童がいたということを知っていたので、それでは本末転倒であると考え、日曜日スタート土曜日終わりにした。日曜日スタートにしたことで余裕をもって昼過ぎに集まることができ、初日にアイスブレイクや草スキーなどで子供たちの緊張をほぐすことができた。また、土曜日の昼過ぎに帰ることで、次の日もゆっくり身体を休ませることができたのでよかった。
- ・初日に、共同生活や規則正しい生活の大切さや自立について話をして取り組んだ。子供たちは目標を持って一週間生活することができた。最終日のアンケートでは、ほとんどの子供が自分の成長に気づくことができていた。
- ・普段、限られた友人関係の中で生活をしている児童が多いが、今回の事業を通して子供たちの新

たな交友を生み出すことができた。初めは同じ学校の児童同士でくっついたり、どこかぎこちない関係が見られたが、合宿後半になると積極的に関わろうとする様子や明るい笑顔がいろいろな場面で多く見られた。

- ・子供たちは一週間もの間家族から離れ、携帯もテレビもゲームも無い中で共同生活を送ってきた。参加児童の中には普段は家でゲームばかりしているという児童もいたが、合宿中にそのことについて一度も不満をもらすことは無く、むしろ合宿後のアンケートでは「草スキーが楽しかった。」「合宿全体を通して楽しくてよかった。」などとプラスの意見が多かった。また、他の児童も誰一人としてテレビが観たい、携帯を使いたいなどと言う児童はいなかった。

○ 事業の課題

- ・3年ぶりにふれあい通学合宿を行ったが、参加は2校で9名であった。やはりコロナウィルスの影響が響いていると思われる。3年前とは環境が変わってきているので、来年度は期間を短くして例えば3泊4日とか夏休み期間中に2泊3日など、実施時期や日数を再考した方がよいのではないかと考える。
- ・学校や教育委員会など各関係機関と連絡を取り合いながら、子供たちの為にどんなことができるか考えながら事業を進めていかなければならない。

体験！発見！ジオパーク(マリンスポーツ編) ～室戸の海を楽しもう～



1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

室戸ユネスコ世界ジオパークを構成している自然や文化、産業について学ぶ体験活動をとおして、青少年のチャレンジ精神、社会性、創造性を育む。

○ 実施期間

令和4年8月20日(土)～令和4年8月21日(日) 1泊2日

○ 対象者・参加者数(人数/定員)

小学4年生から6年生までの児童 15名/20名

○ 活動プログラム

8/20(土)	8/21(日)
9:30 高知方面送迎バス(はりまや橋BT)出発	6:00 起床・洗面・清掃
10:00 徳島方面送迎バス(美波町由岐支所)出発	7:15 朝のつどい
12:15 送迎バス海浜活動センター到着	7:30 朝食【食堂】
12:20 開講式	8:30 (海浜活動センターに移動)
12:30 昼食【弁当】	9:00 スノーケリング(室戸岬新港とろむ)
13:30 カヤック・SUP(室戸岬新港とろむ)	11:45 片付け・着替えなど
16:30 (自然の家に移動)	12:15 昼食【弁当】
17:00 入所オリエンテーション	13:15 閉講式
17:30 タベのつどい	13:30 送迎バス海浜活動センター出発
17:45 夕食【食堂】	15:30 徳島方面送迎バス(美波町由岐支所)到着
18:30 ベッドメイキング	16:15 高知方面送迎バス(はりまや橋BT)到着
19:00 星空観察(曇りの為、星空のお話)	
20:00 入浴	
21:30 就寝	

2. 活動の様子

<1日目>

今年のマリンスポーツ編は室戸の海を心ゆくまで楽しんでもらおうと、大きく3つのアクティビティを行った。

まずはシーカヤックの活動を行った。即席のバディであったが、協力してライフジャケットを着たり、パドルの練習をしたりしてカヤックを運んだ。初めての児童もいたが、上手に操作できていた。

次にメガSUP(スタンドアップパドルボード)の活動を行った。ボランティアリーダーのお兄さんお姉さんと一緒に班ごとに活動した。バランスを考えて、誰がどの位置に立つか班で相談しな

がら活動した。友達と楽しみながら挑戦する姿が見られた。練習を重ねることで、パドルの正しい使い方やバランスのとりに方を自分なりに習得し、SUPを上手に漕艇できるようになった。室戸の海に子供たちの歓声が響き渡っていた。

夕食後は星空のクイズや話を聞いて入浴し、翌日の準備をして就寝した。



< 2日目 >

6時に起床し、身支度や寝具の整理整頓、宿泊棟の掃除をした。朝のつどいではラジオ体操や国旗、所旗の掲揚、代表者の挨拶などをし、心も体も目覚めることができた。

場所を移動し、スノーケリングの活動を行った。子供たちはまず、海浜活動センターでマスクの付け方や呼吸の仕方などを学んだ。命にかかわることなので、子供たちの表情も真剣そのものであった。バスで室戸岬新港北に移動し、バディでライフジャケットやマスク、スノーケルが正しく装着できているか最終チェックをした。上級生が下級生にやさしく教えてあげている姿が微笑ましく思えた。

初めは恐る恐る海の中に入っていた子供たちも時間がたつにつれ海に慣れ、気が付けば1時間近くも海の中にいて、その夢中な姿に驚かされたことだった。スノーケリングの体験を通して、バディで楽しみながら活動している姿が多く見られた。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・海にはこんなに魚がいたことが分かった。
- ・海で遊ぶのが思ったより楽しかった。
- ・室戸にはカラフルな魚がいた。
- ・色々な魚が見られた。
- ・海のことをよく分かった。
- ・みんながやさしくしてくれた。

- ・みんなで協力してとても楽しくできた。
- ・みんなで分かち合える楽しさがあった。
- ・普段できないことを体験することが出来、とても楽しかった。

○ 事業の成果

- ・マリンスポーツを通して、自分の身の回りの自然や文化などに目を向けることができるようになった。
- ・海の活動に必要な道具の使い方を正しく学ぶことができた。
- ・マリンスポーツを体験することで、仲間との絆を深めることができ、協力し助け合うことの大切さを学ぶことができた。
- ・定員を少なくしたり、SUPやカヤックに乗る人数を制限したりすることで、ソーシャルディスタンスを十分に確保しながら活動を行うことができた。

○ 事業の課題

- ・今後も新型コロナウイルスの状況に応じて、感染防止対策を行い、リスクを軽減していく必要がある。
- ・熱中症対策を確実にを行い、水分補給を適宜行えるように準備する必要がある。
- ・職員数を多くしたり、事前の道具の使い方等の指導時間の確保を行ったりすることで、安全に十分配慮する。

M キャンプ「ソロキャンプにチャレンジ！！～むろとサバイバルテント泊～」

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

自然体験活動や集団宿泊体験を通して、青少年の自主性、協調性、社会性を育む。
また、野外炊事や火つけ体験を通して普段の生活に役立つ生活力を身に着ける機会とする。

○ 実施期間

令和4年10月1日（土）～2日（日） 1泊2日

○ 対象者・参加者数 （人数／定員）

小学4～6年生 （37名／40名）

○ 指導者等

室戸ボランティアリーダー 11名
国立室戸青少年自然の家職員 2名（中谷、佐藤）

○ 活動プログラム

	1日（土）	2日（日）
午前	9:15 高知方面送迎バス出発（はりまや橋観光BT） ※徳島方面送迎バス出発 11:45 開会式	6:30 起床・荷物整理 7:00 朝食（カートンドッグづくり） 8:45 テント撤収作業 11:00 入浴
午後	12:00 昼食（提供弁当） 12:45 アイスブレイク 13:15 班活動「旗をつくろう」 14:00 テントづくり・ベースキャンプづくり ※小雨：決行 強雨：体育館 17:30 野外炊事（レトルトカレー）	12:00 昼食（食堂） 12:45 班活動（ふりかえり） 13:15 閉会式 13:30 解散・送迎バス出発（自然の家） 16:20 送迎バス到着（はりまや橋観光BT）
夜	20:00 ナイトハイク 20:45 焚き火・ふりかえり 21:30 就寝準備	

2. 活動の様子

<1日目>





キャンプを始める前に、仲間づくり活動として実施した「班の旗づくり」では、「みんなで協力しよう」「みんなで楽しもう」などの意見が出ており、自分の意見を言う機会と、他の参加者の意見を聞く機会を通して、仲間意識が強くなっていく様子が見受けられた。

テントづくりをするためのロープワークでは、得手不得手があるものの、実際にテントを張る際には、ロープワークが得意な参加者が仲間に教えてあげる姿が見受けられた。

野外炊事をする頃には、班の関係性が構築されており、楽しい会話が弾む中での活動であった。

たき火を囲って振り返りをする前に、全ての明りを消して、満天の星空を一斉に見上げた際は、「うわ～！！きれい」と全員の声が響いた。中には、「はじめて天の川を見た」「星ってこんなにきれいなんだ」などの感想があった。

<2日目>



朝食のカートンドッグづくりや、テントの撤収作業では、班で協力する声掛けが飛び交っている様子が伺えた。

最後のふりかえりでは、「友達がたくさんできてよかった」「ロープワークを覚えることができた」「またキャンプをしたい」などの意見を聞くことができた。

3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・学校とは違った楽しさがあった。
- ・自作テントを立てるのが大変だったが、みんなが助けてくれた。
- ・一人でできないことも、みんなで協力することでできることがわかった。
- ・2日間が一瞬のように感じるくらい楽しかった。
- ・はじめは友達ができなかったけど、勇気を出して自分から声を掛けたら友達がたくさんできた。
- ・火の番をみんなに任されたとき、とても嬉しかった。

○ 事業の成果

自分たちが寝るために必要なテント作りということで、難しいロープワークを意欲的に取り組んでいる様子が伺えた。

初めて屋外で寝る参加者も多い中、寒くないように参加者同士で声を掛け合って寝袋と毛布を準備する様子が伺えた。

○ 事業の課題

テントの設営時間を前回の課題を活かして長く確保していたが、それでも時間が足りない状況となり、タープ張りを断念した。

今回は、既存のソロテントではなくブルーシートテントの設営においては、3時間程度の時間を確保すべきであった。

生き物ウォッチング 2022 in 室戸ユネスコ世界ジオパーク

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

室戸に生息する野生動物の調査・観察を行う活動をとおして、生き物への興味関心を高め、主体的に学ぶ力、観察する力を育む。

○ 実施期間

令和4年10月29日（土）～令和4年10月30日（日）1泊2日

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

小学生、未就学児とその保護者

7家族 18名／定員20名

○ 活動プログラム

10月29日〔土〕 晴れ	10月30日〔日〕 晴れ
12:30 室戸世界ジオパークセンター集合（所バス）	6:00 起床
13:10 オリエンテーション	6:40 ネズミトラップの確認・観察・片付け
13:25 室戸ジオパークを見学・動物カメラの説明	7:30 朝食
14:55 動物カメラの設置	8:35 清掃・点検
16:05 ネズミトラップの設置	9:10 動物カメラの回収
16:45 配宿・入所オリエンテーション	10:10 カメラ映像の確認
17:45 夕食	11:10 振り返り・スタッフ挨拶・アンケート記入
18:25 ナイトハイク	11:25 解散
19:25 ネズミトラップの見回り	11:30 自然の家発（所バス）
20:20 入浴	
21:25 就寝	

2. 活動の様子

< 1日目 >

室戸世界ジオパークセンターにて行われたオリエンテーションでは、参加者とスタッフが自己紹介と、自分の好きな生き物について紹介した。その後のジオパークの説明では、参加者は室戸の海底の地形についてインストラクターの説明を受けたり、3Dマップを用いたりして学習した。参加者は室戸沖の海底の急激に深くなる地形に驚き、その他にもセンター内の室戸の文化や特産品の展示にとっても興味を引かれていた。

次に、動物の観察のために使用するカメラの説明を講師の谷地森先生から聞き、自然の家の冒険の森にてカメラの設置を行った。参加者たちは谷地森先生の説明をもとに、生き物が通りそうな場所を家族でそれぞれに考えながら、カメラを設置していった。カメラを設置する際に”どこの樹木にどのように設置すれば動物を撮影することが出来るか”ということ子どもたちが真剣に考え、親子で相談している姿を見ることが出来た。

その後は草スキー場まで移動し、ネズミトラップについても谷地森先生から説明を受け、トラップの設置場所を決定した。谷地森先生からは、「ここ2年ネズミが捕獲されていません。今年こ

そはみんなで頑張りましょう！」という言葉もあり、参加者は捕獲の期待に胸膨らませながら思い思いの場所を先生に伝え、設置してもらった。

夕食後は、星座観察・ナイトハイクを実施して施設内の夜の姿を感じながら歩いた。昼間から晴れ間が夜になっても続き、カシオペア座や北斗七星を見つけた子どもたちから喜びの声が聞こえていた。ナイトハイクでも、夜の虫や生き物の声などを聴きながら参加者たちは普段は出来ない夜の散策を楽しんでいるようだった。



<2日目>

2日目は早朝より、ネズミトラップの確認を行った。これまで2年間ネズミがトラップにかかっていなかったが、今年は2匹も捕獲することが出来たので参加者から喜びの声が上がっていた。谷地森先生の捕獲したネズミの体重や全長、雌雄についての話を興味深げに聞く家族の姿が印象的で、各家族が主体的に生き物について触れ合う意欲を見せていた。

朝食・部屋の片付けを終えた後、今度は動物カメラの回収を行い、映像の確認を行った。家族ごとに設置したカメラの内、イノシシやタヌキの姿が映っているものがあり、動物の姿が映った時には参加者からは大きな歓声が上がっていた。

その後は、谷地森先生が四国の各地で撮影したクマやシカなどさまざまな生き物の映像が紹介された。映像には撮影のためにカメラ前に吊るされている餌のハチミツを何とかして取ろうとするクマの映像もあり、参加者からは興奮の声も上がった。

生き物のお話では、四国内で観察された生き物の写真やその種類などが紹介され、参加者たちはネズミなどのよく知られる生き物の種類の多さや、初めて見る種類の特徴的な姿に驚いているようだった。

また、環境の変化によるシカとカモシカの生息域の変化や野生動物の保護についてのお話もあり、SDGs「15,陸の豊かさを守ろう」の観点から参加者が学ぶことが出来た。

最後の挨拶では、「家族全員で2日間楽しめたので、また来年も来たい！」という参加者の意見も出て、参加した家族にとって有意義な事業として終わることが出来た。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・知らないことがたくさん知れてうれしかったです。また来たいです。
- ・ネズミのしかけを自分で考えて置いてみる。楽しみにして、取れなかったけど見ることができうれしかったです。ありがとうございました。
- ・子ども3人の参加で不安もありましたが、スタッフや先生、他の家族の方とともにやさしく、楽しくすごせることができました。キレイな星まで見れてうれしいかぎりです。ふだんできない体験ができありがとうございました。
- ・生き物に興味があって参加しました。家では取り組めないようなトラップ、カメラ撮影を用いて自然体の動物がみられて感激しました。子どもだけではなく大人も夢中になれるプログラムだったと思います。子ども同士の交流も深められて、貴重な体験となりました。星がキレイでした！！ありがとうございました。

○ 事業の成果

- ・最初は周りとはあまり関わらなかった子どもが、他の参加者の子どもと仲良くなり、子どもたち同士で自主的に生き物を探しに散策したり、遊んだりする姿など子どもたちが主体的に活動し、成長していく姿が多く見られた。
- ・動物カメラやネズミトラップを設置する際に、参加者がどの位置に設置すればよいか、どのように設置すればよいかを、谷地森先生に質問して家族皆で考えて設置することで、家族の絆が深まっていく姿が見えた。

○ 事業の課題

- ・動物カメラ・ネズミトラップ共に、設置する際にどんな生き物が見つかる可能性があるか、あらかじめ写真付きのリスト等を作成して参加者に提示すれば、参加者の意欲が増し、イメージが明確になると思われる。
- ・万が一、動物カメラ・ネズミトラップで成果が出なかった場合を考えて準備を行う必要がある。
- ・アンケートの結果も良く家族からの申込も多い事業であるので、来年度は募集定員をもう少し増やしても良いと思われる。

防災キャンプ in 室戸



1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

南海トラフ巨大地震を想定しながら様々な体験活動を行うことで、地震や津波についての知識をもったり、自分たちにできることを考えたりし、自助・共助の力を育む。

○ 実施期間

令和4年11月5日（土）～令和4年11月6日（日）1泊2日

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

小学4年生から6年生までの児童（13名/20名）

○ 活動プログラム

11/5（土）	11/6（日）
9:30 はりまや橋観光バスターミナル発	6:00 起床・片付け
10:15 美波町由岐支所発	6:45 健康観察
12:00 送迎バス 室戸世界ジオパークセンター着	7:30 朝のつどい
12:05 入所式・昼食（弁当）	7:45 防災食体験2（朝食）
13:00 事業説明・日程説明	8:30 困ったことを話し合おう
13:15 室戸世界ジオパークセンター見学	9:30 防災倉庫を見学しよう
14:00 南海トラフ地震や津波について学習しよう 講師：中村 昭史氏 柿崎 喜宏氏	10:00 災害時に役立つロープワーク
15:00 室戸市佐喜浜町津呂津波避難シェルター見学 講師：畑中 公允氏	11:00 振り返り・荷物整理・アンケート
15:30 室戸市佐喜浜町浦地区津波避難タワー見学 講師：畑中 公允氏	12:00 昼食（弁当）
16:00 国立室戸青少年自然の家へ移動	13:00 退所式
17:00 避難所生活に関する話を聞こう	13:30 送迎バス 出発
18:00 防災食体験1（夕食）	15:15 美波町由岐支所着
19:00 水のいらないシャンプー、ボディーシート体験	16:00 はりまや橋観光バスターミナル着
20:00 振り返り	
21:30 就寝 レスキューシート体験（体育館） （※電気・ガス・水道を使わず、避難所の疑似体験を行います）	

2. 活動の様子

<1日目>

SDGsの目標11「住み続けられるまちづくりを」に関連し、災害による被災者を減らすということ、今回の事業の目的である「自助・共助」について考えていくことを、入所式で参加者に伝え、事業を開始した。初日は「津波学習」と「避難所体験」を中心に活動を行った。

「津波学習」については、室戸世界ジオパークセンターの専門員2名の指導のもと、ジオパークセンター館内ガイド、津波実験、地震・津波学習（防災クエスト）を行った。館内ガイドでは、高知県沖の南海トラフを3Dメガネで確認したり、室戸の台地の形成やプレートについてジオパーク体感ボックス（前方・左右が全て動画の部屋）で学習したりした。津波実験では横に長い水槽にせき止めた水と建物を設置し、津波の形や威力について学習した。地震・津波学習では、中村地理専門員と柿崎地質専門員の講義により、地震の仕組みや室戸の大地の成り立ちについてクイズ形式で

楽しみながら学んだ。

次に室戸市防災対策課の畑中氏の協力のもと、津波避難タワーや津波避難シェルターの見学を行った。「津波避難タワー見学」では、扉の開け方、スロープはなぜあるのかなど設計のこと、タワー内の備蓄倉庫や被害の想定等について教えてもらった。「津波避難シェルター見学」では、実際にシェルターの内部に入り、就寝スペースとその下にある備蓄や簡易トイレについて教えてもらった。参加者は普段入れない場所に入ることができ、興味をもって話を聞いたり、意欲的に質問をしたりしていた。

夕食は自然の家にて、暗闇の中で「防災食体験」を行った。味の評価はそれぞれであったが、保存期間の長さや、お湯だけでご飯ができるなど調理の簡単さに驚いていた。お腹いっぱい食べられなかったり、味が合わなかったりする経験などを通して、日常で当たり前に行うことができることへのありがたみを感じることができた。

当初は防災研修棟を活用する予定であったが、今回は通常の避難所として各地域の体育館等が想定されること、また体育館での避難所体験が2日目の活動に生きることを考慮し、体育館での避難所体験とした。毛布とアルミシートによる就寝体験では、毛布を多めに準備していたが、夜寝る時には暑くて毛布を1枚しか使わない参加者が多かった。しかし、朝方には気温が下がり、やっぱり気候により毛布が数枚いるという意見がでた。さらに詳しく聞いてみると、予備の毛布を取りたかったけど、暗くて怖くて取りに行けなかった、という意見もあった。服や毛布等、事前の準備の大切さと、ライフラインの大切さを改めて感じることもできたようだ。



<2日目>

6時に起床し、片付けを行った後、「防災食体験（朝食）」を行った。今年度は缶詰のパンを試食し、味は好評であった。しかし、実際の災害の時には、もっと大人数の人が集まるためみんなで食料を分けなければならないこと、必ずしも味のよい防災食があるわけではないことなども伝え、防災準備への意識を高めた。

「避難所で困ったことを考えよう」では、昨日の避難所体験より、参加者に困ったことを発表してもらった。大きく分類すると、ライフラインの大切さ、パーソナルスペースの確保、物の事前準備や活用について話がでた。「防災バックの準備物は何があるだろう」という参加者の意見から、実際避難所にある備蓄倉庫の中には、基本的に何があるか把握する活動へつなげた。また「パーソナルスペースを確保するとき、カーテンなどで仕切りをつくれればよい」という意見からロープワークの活動につなげた。

「備蓄倉庫見学」では、参加者に中にある物品を予想をしてもらってから、実物の確認をした。参加者は小型のテントや真空パックに詰められた毛布があることに驚いていた。ただ毛布などの数をよく観察すると、避難者想定数に対して数が少ないことが分かった。備蓄倉庫のみに頼るのではなく、それぞれが準備をしっかりしないといけないことに気付くことができた。

「ロープワーク」では、簡単な結び方から、ロープ同士をつなぐ方法、自分の体をロープにくくする方法など、実際に覚えておくと災害時に生かせる内容を中心に演習した。参加者は難しい結び方にも一生懸命挑戦していた。

最後に防災キャンプを振り返り、事前の準備の大切さ、みんなで協力することの大切さについて振り返った。各家庭で自助・共助を意識して災害に備えてもらえるようにしたい。また、学習したことを家庭や学校の友達にも広めていくことが大切だという話をし、本事業を終えた。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・電気や水がないとこんなにも困るのだと思った。
- ・電気を消すなど、地震が実際に起きたことを想像しながら活動できた。
- ・災害時は、このキャンプより生活が大変になると思った。
- ・内容や活動の一つ一つが役に立つし、とても面白かった。
- ・普段食べることのない缶詰のパンを食べることができてよかった。
- ・おもしろいことも学べることもたくさんあるので、他の人にもぜひ参加してほしい。
- ・自分のためにもなるし、家族に話したら人のためにもなる。
- ・自分にあった量や大きさ、重さを意識して、防災バックの点検を行いたいと思った。

○ 事業の成果

- ・ジオパーク専門員、防災対策課の協力を仰ぐことで、普段できない経験や詳しい解説を聞くことができ、参加者の心に残る事業となった。
- ・実際に避難所として使われることの多い体育館での宿泊活動を通して、実際にどんなことに困るのか、経験しながら感じたり、友達と意見交換したりすることができた。
- ・活動や生活の中で、協力する場面があったり、不便さを感じたりすることで、互いに助け合う必要性、事前の準備等の必要性を感じ、自助・共助の意識をもつことができるようになった。

○ 事業の課題

- ・台風の影響により、9月の開催が11月の開催となったため、日程が合わず2日目に講師を呼び避難所運営について考えることができなかった。来年度日程が合えば避難所運営を検討したい。
- ・避難所体験をさらに現実的にすることや、みんなで協力せざるを得ない活動を多く取り入れることで、自助、共助の意識をさらに高める事業にしたい。

室戸においでよ！家族DAY！！

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

高知県東部地域の豊かな自然・歴史・文化を体験する活動、宿泊体験、世代間交流などを通して、青少年のチャレンジ精神、創造性、社会性を育む。

○ 実施期間

令和4年11月19日（土）～令和4年11月20日（日）1泊2日

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

小学生以下を含む家族またはグループ

宿泊（59名 / 24家族 100名程度）

日帰り（121名 / 200名程度）

○ 活動プログラム

11月19日〔土〕 晴れ	11月20日〔日〕 晴れ
13:30 宿泊受付	6:30 起床
14:00 開会式・オリエンテーション	7:30 朝のつどい
15:00 子ども体験遊びリンピック	7:45 朝食
17:00 タベのつどい	8:45 退所点検
17:15 夕食	9:30 日帰り受付
19:00 夜間プログラム (室戸警察署による交通安全のお話)	10:00 オープニング 協力団体による出展ブース クラフト(竹細工、流木クラフトなど) 体験(タッチプール、火起こしなど)
20:00 焚火体験&星空観察	11:30 昼食
20:15 入浴	14:00 終了
22:00 就寝	

2. 活動の様子

<1日目>

子ども体験遊びリンピックでは、参加者が思い思いに6つのブースに分かれて自分の記録に挑戦している姿が見られた。ほとんどの参加者は1度の挑戦で終わらず、何度もブースに参加してどうすれば新記録を出すことができるかを考えながら挑んでいる様子が見受けられた。

また、夕食後の夜間プログラム「室戸警察署による交通安全のお話」では室戸警察署の交通課長から普段では聞くことのできない夜間の交通安全について貴重な話を聞くことができた。特に「蒸発現象」や「服の色による視認性の違い」のような自分たちの目で見ることのできる現象の話の時には「本当に消えたように見える！」という感想や「違う色はどんな風に見えますか？」という質問が飛び出し、子どもはもちろん大人達も大盛り上がるのプログラムであった。



<2日目>

2日目は家族DAYの本番ということもあり、朝のつどいの中から各家族が楽しみにしている姿が見受けられた。

10時からのオープニングには、元保育所の園児及び保護者によるダンスが披露され大盛り上がりの中家族DAYがスタートとなった。参加者は開かれている様々なブースに参加して「楽しい～！」や「こんなのやったことない！」という笑顔溢れる声が飛び交っていた。14時の終了の挨拶があった後も「もうちょっと遊びたい！」という参加者の声や「来年も応募します」という声を聞くことが出来た。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・ 3歳の子供でも楽しめる内容で良かった。次も機会があったら参加したい。
- ・ とても楽しかったので、またやりたいし、いろんな人とふれあい、友達になれたのもっと続けてほしいです。
- ・ タッチプールでサメや、ヒトデをさわられてうれしかったです。
- ・ 発達障害児3人を1人でつれての宿泊にとまどいがありましたが、問題行動にも優しく対応してくださりありがとうございました。すてきな思い出ができました！

○ 事業の成果

- ・ 普段の生活では聞くことの出来ない話や、体験することが出来ない活動を提供することが出来た。
- ・ 室戸市内の協力団体に声をかけブース出展を依頼することで、地域と一体となって事業を開催することによって、地元地域への貢献を行うことが出来た。

○ 事業の課題

- ・ 様々な活動を体験してもらえるようにプログラムを組んだが、アンケートに「食事の時間等にもう少しゆとりが欲しかった」という意見もあったので、もう少し時間にゆとりを持たせる部分も必要であると思われる。

Mキャンプ「ふれよう！まなぼう！たべよう！土佐あかうし！」

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

高知県東部地域の豊かな自然・歴史・文化を体験する活動、宿泊体験、世代間交流などを通して、青少年のチャレンジ精神、創造性、社会性を育む。また、「土佐あかうし」とのふれあいや野外炊事をおして、地域の畜産業について知るとともに多彩な職業観を育む。

○ 実施期間

令和5年2月4日（土）～2月5日（日） 1泊2日

○ 対象者・参加者数

小学4～6年生 23名／20名程度（人数／定員）

○ 協力

土佐和牛ブランド推進協議会、株式会社三谷ミート、豊田畜産

○ 講師

公文喜一 氏（高知県西部家畜保健衛生所 高南支所 支所長）

三谷新吾 氏（株式会社 三谷ミート）

豊田純栄 氏（豊田畜産 代表）

○ 活動プログラム

	1日目		2日目
9:30	高知方面送迎バス出発 (はりまや橋観光BT)	6:30	起床
10:00	徳島方面送迎バス出発 (美波町由岐支所)	7:30	朝のつどい
12:00	自然の家到着	7:45	朝食(食堂食)
12:15	昼食(食堂食)	8:45	退所点検
13:00	はじまりの会・アイスブレイク	9:30	たべよう! (野外炊事) ・土佐あかうしで牛丼づくり! ・え?ステーキも食べれるの?
14:00	ふれよう! ・牛舎でエサやり体験! ・牛の心臓ってどんな音?	13:00	おわりの会
17:00	夕べのつどい	13:30	自然の家出発
17:15	夕食(食堂食)	15:30	徳島方面送迎バス到着 (美波町由岐支所)
18:30	まなぼう! ・味覚クイズにチャレンジ?! ・土佐あかうしってどんな牛?	16:00	高知方面送迎バス到着 (はりまや橋観光BT)
21:00	入浴		
22:00	就寝		

2. 活動の様子

<1日目>

初日の『ふれよう!』では、実際に牛舎へ行き、畜産農家さんに教えてもらい、土佐あかうしの子牛にエサをあげたり、牧草を機械で裁断したり、ブラッシングしてあげたり、獣医さんには聴診器で牛の心音のきき方を教えてもらったりと、たくさん土佐あかうしにふれました。夜の『まなぼう!』では、土佐あかうしの歴史などたくさんのことを学びました。途中、鼻をつまんで目をつむって、あめ玉を食べて味を当てられるか挑戦しました。予想外の回答にみんな味覚の不思議を楽しみながら学びました。



<2日目>

2日目はついに『たべよう!』です。目の前にある土佐あかうしにみんな目を輝かせていました。グループで役割を相談しながら土佐あかうしで牛丼をつくりました。心配していたご飯も全てのグループが大成功。おいしい牛丼が完成しました。講師の方にじっくり焼いていただいた土佐あかうしのステーキもとてもおいしかったです。全てのプログラム前後にグループ毎に学んだことや感じたことを振り返りました。模造紙を埋め尽くすたくさんの学びや気づきがありました。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・ふれる、まなぶ、たべる、すべてができました。2日間存分にあかうしにふれました。
- ・知らないことを知って、振り返られた。また高知の特産品のことをしりたい。

○ 事業の成果

高知県のブランド牛である「土佐あかうし」について実際にふれるだけでなく、畜産農家さんのお話を聞き、楽しさや苦勞を聞くことができた。また、支える側の獣医さんのお話を聞き、「土佐あかうし」の他の牛との違いや直面している問題について学ぶことができた。そして、卸売り業者さんのお話を聞き、私たちの口に届くまでの一連の流れについて知り、食育について学ぶ機会となった。

○ 事業の課題

定員を大幅に超える応募者がいたため、安全面に配慮した上で、受入人数の増加を検討したい。

体験！発見！ジオパーク ①②

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

室戸ユネスコ世界ジオパークを構成している自然や文化、産業について学ぶ体験活動を通して、青少年のチャレンジ精神、社会性、創造性を育む。

○ 実施期間

- ①令和5年2月11日（土）～令和5年2月12日（日） 1泊2日
- ②令和5年2月18日（土）～令和5年2月19日（日） 1泊2日

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

- ①小学4～6年生までの児童（14名／20名程度）
- ②小学4～6年生までの児童（5名／10名程度）

○ 活動プログラム

1日目	2日目
9:30 高知方面バス 出発	6:00 起床
11:50 自然の家 着 始まりのつどい	海成段丘を照らす日の出を見よう 7:30 朝のつどい
12:20 昼食【食堂食】	7:45 朝食【食堂食】
13:30 アイスブレイク 崎山台地を歩いて海成段丘を学ぼう	10:00 森と川と海のつながり学ぼう ～流木クラフト～
17:00 タベのつどい	11:30 まとめ
17:15 夕食【食堂食】 室戸岬灯台見学	12:00 昼食【食堂食】
20:30 入浴・就寝準備	13:00 終わりのつどい
21:30 消灯・就寝	13:30 自然の家 発
	16:00 バス 最終到着

2. 活動の様子

一日目は「崎山台地を歩いて海成段丘を学ぼう」として、崎山台地に広がる自然の家敷地内でのスコアオリエンテーリングを楽しみながら、海成段丘の地勢を体験する活動を行った。展望棟屋上や星を見る丘の展望台、ロッジ・防災研修棟の展望スロープから西山台地を眺め、海成段丘の特徴的な地形を目で確かめていた。夕食後はバスで最御崎寺へ移動し、徒歩で室戸岬灯台へ向かった。室戸岬灯台が日本一の光達距離を誇ること、第1等レンズを持つ日本で5か所しかない第1等灯台であること、鉄造の現役灯台では日本で2番目に古いことなどを学んだ。

翌朝は施設内展望棟屋上から日の出の様子を観察した。①日程では水平線から昇る朝日を見ることができたが、②日程ではあいにくの曇天によって観察はできなかった。最後の活動として、流木クラフトのアクセサリ作りを行った。海岸で拾われた材料の流木について、もともとはどこにあり、どのような道筋をたどって流れ着いたかを考えることで、森と川と海のつながりに関しての気づきを得られる内容であった。

<1日目>



<2日目>



3. 事業の成果と課題

○ 事業の成果

12月に実施予定であった「わくわく？どきどき？メリクリキャンプ！」が積雪による交通障害のため中止となり、参加予定者への補完も兼ねた開催となった。室戸の自然や文化、産業について学ぶ体験活動をコンパクトにまとめる形で構成したが、ゆとりあるプログラム設定をしたこともあり、参加者からの評価も高かった。室戸を特徴づける、海成段丘による台地と岬をフィールドにした展開例を確立することができた。

○ 事業の課題

研修支援団体受入の関係で使用できる宿泊棟に制限がかかり所バス運行に制約もあるなど、年度当初計画からの大きな変更がある中での実施となった。アフターコロナ過渡期の中での事業実施となったが、実施時期や規模の検討整理を踏まえて次年度以降の展開につなげていきたい。

体験！発見！ジオパーク ③

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

室戸ユネスコ世界ジオパークを構成している自然や文化、産業について学ぶ体験活動を通して、青少年のチャレンジ精神、社会性、創造性を育む。

○ 実施期間

③令和5年2月25日（土）～令和5年2月26日（日） 1泊2日

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

③小学4～6年生までの児童（7名／20名程度）

○ 活動プログラム

1日目		2日目	
9:30	高知方面バス 出発	6:00	起床
11:50	自然の家 着 始まりのつどい		海成段丘を照らす日の出を見よう
12:20	昼食【食堂食】	7:30	朝のつどい
13:30	アイスブレイク 崎山台地を歩いて海成段丘を学ぼう	7:45	朝食【食堂食】
17:00	夕べのつどい	10:00	室戸岬を歩こう むろと廃校水族館見学
17:15	夕食【食堂食】 夜の崎山台地を歩こう	12:00	昼食【弁当】
20:30	入浴・就寝準備	13:00	終わりのつどい
21:30	消灯・就寝	13:30	バス 出発
		16:00	バス 最終到着

2. 活動の様子

一日目は「崎山台地を歩いて海成段丘を学ぼう」として、崎山台地に広がる自然の家敷地内でのスコアオリエンテーリングを楽しみながら、海成段丘の地勢を体験する活動を行った。展望棟屋上や星を見る丘の展望台、ロッジ・防災研修棟の展望スロープから西山台地を眺め、海成段丘の特徴的な地形を目で確かめていた。夕食後は星を見る丘までのナイトハイクを行った。星を見る丘の展望台からは室戸市街を見下ろす夜景と満天の星を同時に楽しむことができた。

翌朝は施設内展望棟屋上から日の出を観察した。水平線上に雲があったために日の出時刻に太陽を見ることはできなかったが、東の空が徐々に明るさを増して雲が光に包まれていく様子を見守った。雲の上に太陽がみられた時には、参加者から大きな歓声が上がっていた。

「室戸岬を歩こう」では室戸ユネスコ世界ジオパークの特徴ある植生と地質・地形を実踏して学んだ。亜熱帯性樹木のアカウヤ土佐備長炭の原材料となるウバメガシを実際に触って質感を確かめた。タービダイト層のシマシマ模様は深海の底に砂と泥が交互に積もってきたことや、激しい地殻変動で海底が地上に隆起したことの説明を受けた後には実際に岩の上に登って、古代の海

底を体全体で感じていた。

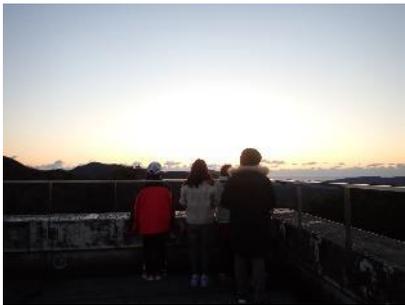
むろと廃校水族館は地元の定置網(大敷網)で捕獲される海洋生物だけを展示する特徴的な施設である。沿岸漁業の仕組みや地域の水産業、水産物について学ぶことのできる絶好の場である。参加者は社会科の授業で「水産業における食料生産」を学習することもあり、大きな関心をもって館内を巡っていた。

盛りだくさんの内容であったが、室戸ユネスコ世界ジオパークを構成する自然、文化、産業の一端を自身の目で見て体験する二日間となった。

< 1日目 >



< 2日目 >



3. 事業の成果と課題

○ 事業の成果

令和4年度教育事業の応募落選者へ向けての補完をかねた開催となった。室戸の自然や文化、産業について学ぶ体験活動をコンパクトにまとめる形で構成したが、ゆとりあるプログラム設定をしたこともあり、参加者からの評価も高かった。①②から活動地を一部入れ替えての実施となったが室戸を特徴づける、海成段丘による台地と岬をフィールドにした展開例を確立することができた。

副次的な効果として、これまで教育事業に参画できていなかった法人ボランティアの活動の場を創出することができた。3週にわたってシリーズ実施した「体験！発見！ジオパーク」の中で、コロナ禍の影響で滞っていたボランティア育成の遅れを取り戻せたことで次年度以降の法人ボランティア確保に大きく寄与できる結果となった。

○ 事業の課題

①②と共通の課題となるが、研修支援団体受入の関係で使用できる宿泊棟に制限がかかり所バス運行に制約もあるなど、年度当初計画からの大きな変更がある中での実施となった。アフターコロナ過渡期中での事業実施となったが、実施時期や規模の検討整理を踏まえて次年度以降の展開につなげていきたい。

「早寝早起き朝ごはん」むろとキャラバン隊

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

子どもたちの健やかな成長をうながすための基本的な生活習慣の確立に向けた普及啓発。

○ 実施期間

令和5年1月13日（金）～令和5年2月17日（金） 全7回実施

○ 対象者・参加者数

室戸市内外の保育園及び小学校 全7団体 総数266名

出前事業 高知県立のいち動物公園 280名 創造広場アクトランド 102名

○ 活動プログラム

- ・ 絵本の読み聞かせ (10分程度)
- ・ 早寝早起き朝ごはん〇×クイズ (5分程度)
- ・ 早寝早起き朝ごはんダンス (10分程度)
- ・ 記念撮影 (5分程度)

2. 活動の様子

最初は自然の家と職員の自己紹介から始まります。その後は、「早寝早起き朝ごはん」の絵本の読み聞かせを行い、〇×クイズを行いました。クイズの後は簡単なレクリエーションを行い、ダンスの振り付けの練習をしました。その後は、マスコットキャラクター「よふかしおに」が登場し、音楽に合わせてみんなでダンスをしました。ダンスの後は「よふかしおに」と記念撮影をし、啓発グッズの説明や贈呈を行いました。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・ 言葉がけが上手で子どもたちも楽しく参加できてよかったです。
- ・ 早寝早起き朝ごはんの大切さを日々伝えているが、違う啓発活動で興味を持たすことで来てよかった。



○ 事業の成果

「よふかしおに」とダンスをしたり、合言葉の「早寝！早起き！朝ごはん！」を元気に繰り返したりと楽しく「早寝早起き朝ごはん」について学んでもらうことができた。啓発グッズを配布することで、子どもたちだけでなく保護者への啓発にも繋がった。

○ 事業の課題

新たな保育園や小学校での実施及び継続的な実施により、さらなる普及啓発が必要と考える。

くろしおいっしょにあそぼう通信

1. 事業の概要

○『くろしお』いっしょにあそぼう通信

『くろしお』いっしょにあそぼう通信は、高知県東部地域と徳島県南部地域に暮らす人たちが主催する青少年向け体験活動事業を集めた情報誌である。この情報誌の特徴は、様々な団体が主催する事業を1つの情報誌に取りまとめ、参加申込の手続きを事務局がすべて行ったところである。

○実施期間

令和4年9月～令和5年2月

○対象者

高知県東部地域から徳島県南部地域の家庭及び青少年

○実施事業

- ・イルカの飼育員お仕事体験（室戸ドルフィンセンター）
- ・ネイチャーゲーム体験教室（高知県シェアリングネイチャー協会）
- ・甫喜ヶ峰フェスティバル 2022（高知県甫喜ヶ峰森林公園）
- ・「漁船に乗船していざ深海生物漁業体験」（むろと漁師の水族館 marine+）
- ・第13回ハンサグラス（YASU 海の駅クラブ）
- ・秋のあなんファミリーキャンプ（YMCA 阿南国際海洋センター）
- ・塩の道ハイキング（高知県立青少年センター）
- ・かつおの薫焼き体験（とろむ内 海玄）

2. 成果と課題

○成果

- ・今年度新たに掲載協力を頂けた団体があった。
- ・チラシの余白部分を使い、掲載団体の募集及び他機関紹介を行うことができた。

○課題

- ・新規掲載協力団体の確保。
- ・参加者の声が反映された広報誌を作成し、より多くの方へ体験活動を普及する必要がある。

次年度は、コロナウイルス対策の行動規制がより緩和され、体験活動の需要が高まると予想される。マリンスポーツができる夏場の事業を紹介するために、実施期間を7月から2月までに延長し、夏休み前に配布できるようにしたい。

管理運営報告

1. 職員の主な研修・講習等

- 「新任職員研修」 令和4年4月4日
(新規採用職員、人事交流職員及びその他の職員対象/2名参加)
 - ・ 所の概況、実施事業及び利用者受入業務の内容説明等

- 「海活動時における避難方法に係る研修」 令和4年4月8日(10名参加)
 - ・ 避難経路及び避難場所の实地確認、避難誘導の方法について説明

- 「救急救命・AED講習会」 令和4年4月29日(8名参加)
 - ・ 室戸市消防署職員による講義及び実践練習

- 「熱中症予防研修」 令和4年5月11日(14名参加)
 - ・ 株式会社大塚製薬工場社員による講義

- 「危機管理研修」 令和4年7月20日(16名参加)
 - ・ 施設利用者の安全体制を再度確認及び体調不良者が発生した場合の対応を实地訓練

- 「避難・消火訓練」 令和4年9月26日(14名参加)
 - ・ 室戸市消防署職員の立ち合いのもと、利用団体が宿泊時の火災発生を想定した避難訓練
消火器を使つての初期消火の实地訓練

2. 令和4年度国立室戸青少年自然の家運営協議会

日 時 令和5年2月20日(月) 13時から
場 所 国立室戸青少年自然の家
開催方法 対面出席及びオンライン出席によるハイブリッド形式

3. 栄典関係

当施設研修指導員の山崎和彦氏が、平成21年から今日まで14年間にわたり、竹細工や七宝焼等のクラフト活動における指導・助言等、様々な活動を通して青少年の健全育成に尽力され、社会教育の振興に多大な貢献をされた功績により、令和4年11月2日に文部科学大臣から社会教育功労者表彰を受けられた。

山崎和彦氏 略歴

平成21年 独立行政法人国立青少年教育振興機構国立室戸青少年自然の家指導員

平成22年 独立行政法人国立青少年教育振興機構国立室戸青少年自然の家研修指導員

4. 施設整備（主なもの）

○宿泊棟への連絡橋の改修

センター棟と宿泊棟を結ぶ連絡橋は、経年及び塩害による劣化損傷が生じ、劣化防止の対策が急務であった。本年度に塗装補修・鉄部補修等の改修工事を行い完了した。

○太平洋を一望できるロッジが復活

ロッジからはもともと太平洋が一望でき、室戸ユネスコ世界ジオパークを構成するマリントラス（海成段丘）も眺めることができる立地である。しかし、近年は樹木が成長し景観を妨げていた。本年度は研修指導員と施設入所中のインドネシア漁業研修生、職員が共に交流を図りながら伐採作業を行った。

その結果、海岸線を一望できる景観が復活、またSDGsに配慮し伐採した樹木は、あわせて行った丸太階段の補修に活用した。

5. 施設設備（主なもの）

○海洋活動体験船「くろしお」修繕

令和4年5月から故障により運航できない状況が続いていた海洋活動体験船「くろしお」は、修繕費用をクラウドファンディングによる寄附金で資金調達することとした。

令和4年12月から令和5年1月にかけてクラウドファンディングを実施し、目標額を上回る形で達成した。

本寄附金により修繕を行い、令和5年度から運航再開できる目途をつけることができた。

○食堂の業務用給湯器を更新

食堂の厨房に設置している給湯器で、経年による機器エラーが多かったものである。調理・食器洗浄には不可欠な機器であり、今回の更新により食事の提供業務を円滑に行えるようになった。

海洋活動体験船「くろしお」復活プロジェクト

あたたかいご支援をいただき、誠にありがとうございました。
ご寄附をいただきました皆様に深く感謝申し上げ、ご芳名を掲載させていただきます。
なお、掲載を希望されない方につきましては、掲載しておりません。

◆寄附者ご芳名（五十音順）◆

敬称略

市橋 秀介、井上 靖彦、岩城 公二、植草 茂樹、大向 菜央、尾崎 敏文、川原 宗
川村 由利、岸下 良幸、木下 文子、工藤 悠司、久保 隆史、桑山 宗大、釧物 正悟
河野 美和、ことうー、小西 静恵、清水 幸一、下地 隆、新川 一也、鈴木 みゆき
外山 和延、曾爾ボラ ばんちゃん、竹内 土佐郎、田中 徹、田辺 勇、田辺 清美
田部未空・田部祥一朗、玉井 志伸、田村 沙季、辻本 喜晴、土居 正幸、戸部 信幸
鳥生 静夫、中島 隆、株式会社長野瓦 代表取締役 長野泰啓、株式会社長野瓦 長野雄一
株式会社長野瓦 従業員一同、樋口 拓、藤川 義久、藤田 尚一、古川 和、逸見 誠
前山 卓、増田 直人、増本 正人、松田 祥平、松村 浩賢、松本 憲一、光川 浩司
室戸市吉良川地区民生委員児童委員協議会、室戸市佐喜浜地区民生委員児童委員協議会
室戸市室戸地区民生委員児童委員協議会、室戸市室戸岬地区民生委員児童委員協議会
室戸市消防親睦会、室戸市消防団元分団、室戸市老人クラブ連合会
むろとぴあ医院 川西孝和、室戸ライオンズクラブ、森下 正道、盛林 優、矢野 光重
山崎 和彦、山之内 恵一、山本 健司、横井 理夫、横手 誠、横山 光治、ho2k.com

ほか掲載を希望されない方 62名

広報活動

広報活動としてイベントブースを出展したり、出張指導を行ったりして施設のPRを行った。

日付	内容	場所	人数
6月8日(水)	幼児期の運動プログラム	田野町立幼保連携型認定こども園田野っ子	57人
5月19日(木)	防災参観日 佐喜浜小学校	室戸市立佐喜浜小学校	28人
7月8日(金)	幼児期の運動プログラム	田野町立幼保連携型認定こども園田野っ子	57人
7月12日(火)	出前講座 「スノーケリング体験」	海陽町立穴喰小学校	15人
9月2日(金)	幼児期の運動プログラム	安田町立幼保連携型認定こども園安田さくら園	49人
9月28日(水)	幼児期の運動プログラム	田野町立幼保連携型認定こども園田野っ子	57人
10月24日(月)	幼児期の運動プログラム	安田町立幼保連携型認定こども園安田さくら園	49人
10月26日(水)	幼児期の運動プログラム	田野町立幼保連携型認定こども園田野っ子	57人
11月9日(水)	幼児期の運動プログラム	田野町立幼保連携型認定こども園田野っ子	60人
11月13日(日)	甫喜ヶ峰フェスティバル2022	甫喜ヶ峰森林公園	20人
11月15日(火)	幼児期の運動プログラム(撮影)	田野町立幼保連携型認定こども園田野っ子	18人
11月20日(日)	室戸においでよ!家族DAY!!	国立室戸青少年自然の家	180人
12月3日(土)	むろとキャラバン隊	高知県立のいち動物公園	280人
12月4日(日)	むろとキャラバン隊	創造広場アクトランド	102人
12月8日(木)	幼児期の運動プログラム	安田町立幼保連携型認定こども園安田さくら園	49人
12月17日(土)	あつまれ!絵本の森①	高知県立ふくし交流プラザ	16人
12月17日(土)	あつまれ!絵本の森②	高知県立ふくし交流プラザ	18人
12月17日(土)	あつまれ!絵本の森③	のいちふれあいセンター	45人
12月17日(土)	あつまれ!絵本の森④	のいちふれあいセンター	4人
12月24日(土)	ブース出展 環境活動見本市 in 室戸市	室戸世界ジオパークセンター	59人
12月25日(日)	ブース出展 とろむdeマーケット	海の駅とろむ	113人
1月11日(水)	幼児期の運動プログラム	田野町立幼保連携型認定こども園田野っ子	60人
1月13日(金)	「早寝早起き朝ごはん」むろとキャラバン隊	甲浦保育園	48人
1月17日(火)	「早寝早起き朝ごはん」むろとキャラバン隊	元保育園	27人
1月19日(木)	「早寝早起き朝ごはん」むろとキャラバン隊	羽根昭和保育所	27人

1月20日(金)	幼児期の運動プログラム	安田町立幼保連携型認定こども園安田さくら園	49人
2月8日(水)	「早寝早起き朝ごはん」むろとキャラバン隊	吉良川公民館	37人
2月9日(木)	「早寝早起き朝ごはん」むろとキャラバン隊	吉良川第一保育所	45人
2月9日(木)	幼児期の運動プログラム	安田町立幼保連携型認定こども園安田さくら園	49人
2月13日(月)	「早寝早起き朝ごはん」むろとキャラバン隊	甲浦小学校	37人
2月17日(金)	「早寝早起き朝ごはん」むろとキャラバン隊	佐喜浜保育所	45人
2月22日(水)	幼児期の運動プログラム	田野町立幼保連携型認定こども園田野っ子	60人
3月8日(水)	幼児期の運動プログラム	田野町立幼保連携型認定こども園田野っ子	60人

計 33 回	計 1,877 人
--------	-----------



南喜ヶ峰フェスティバル 2022
ブース出展



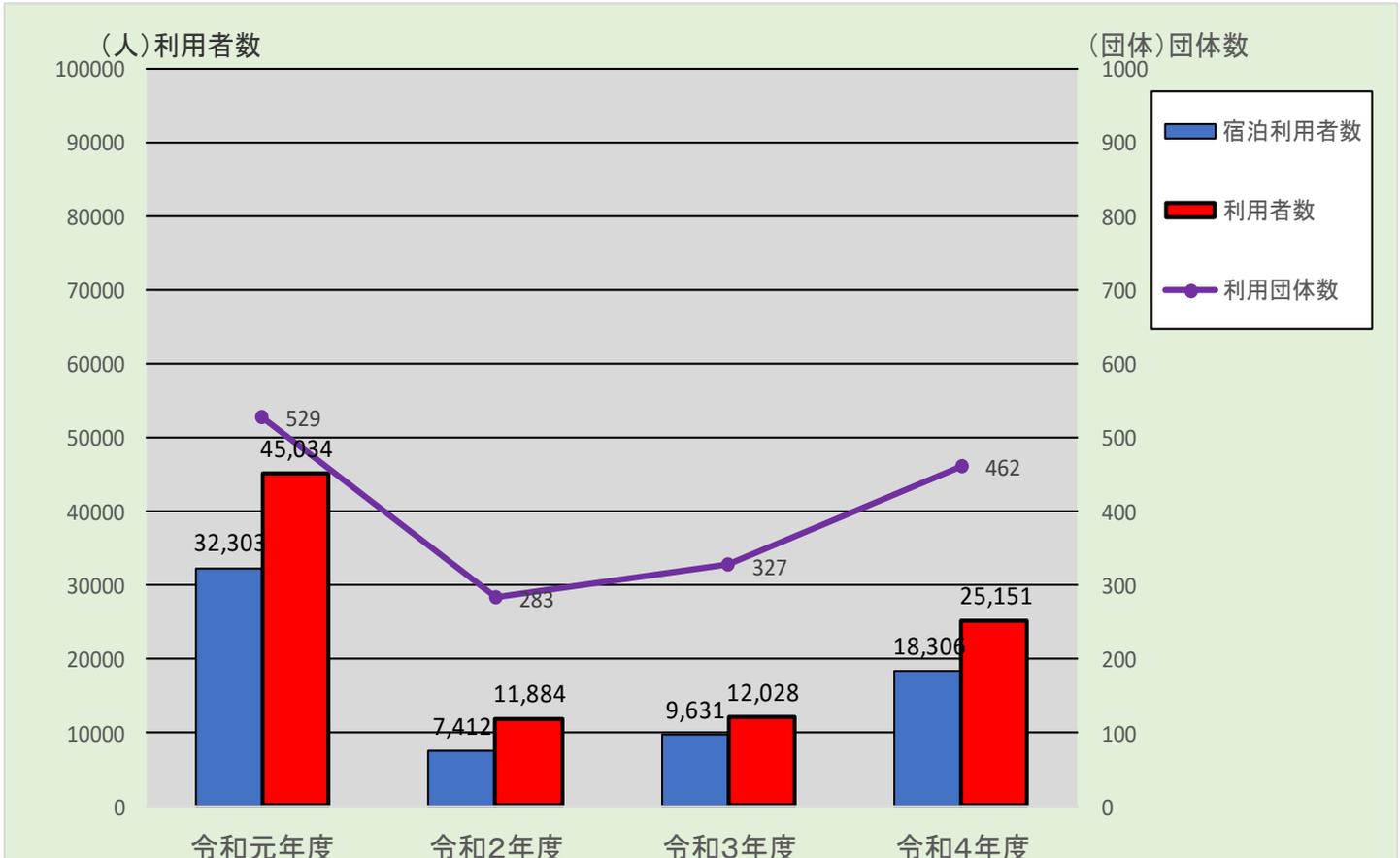
あつまれ！絵本の森



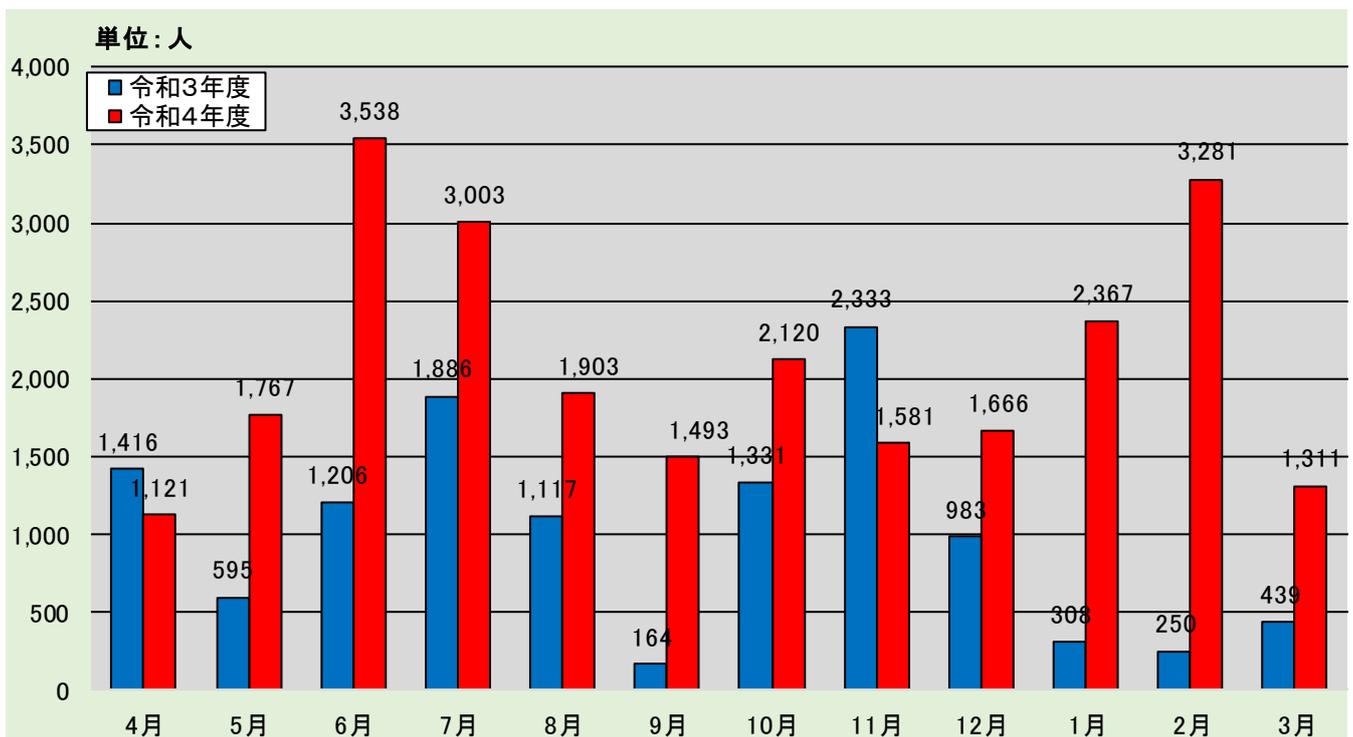
「早寝早起き朝ごはん」むろとキャラバン隊

利用実績

【年度別利用状況】



【月別稼働数】



【団体種別利用数】

